

## 目次

- 4 TJFの10年～2007-2016
- 6 つながるための『好朋友』
- 12 人に迫る
- 14 ヒントはそこに
- 16 小さな町に生き続ける日本語
- 18 仲間と机を並べる
- 20 外国語教育に新しい役割を
- 24 先生もチャレンジャー
- 26 はじめの一步
- 28 「話してみたい」ができる
- 30 違うようで同じ、同じようで違う
- 32 ノボシビルスクに行ってみた
- 34 校長の出番です
- 36 咱们サマキャン見！
- 40 ソウルでダンス・ダンス・ダンス
- 44 自分でやるんですか？
- 48 脳みそ焦げそう
- 50 つながーるでつながる
- 52 レンズがくれたことば
- 56 ありのままのわたし、ここにいます
- 57 知らないことに出会うワクワク感を
- 58 背中を押す贈り物
- 59 知ってください、私たちのこと

### モヤモヤ・スッキリ

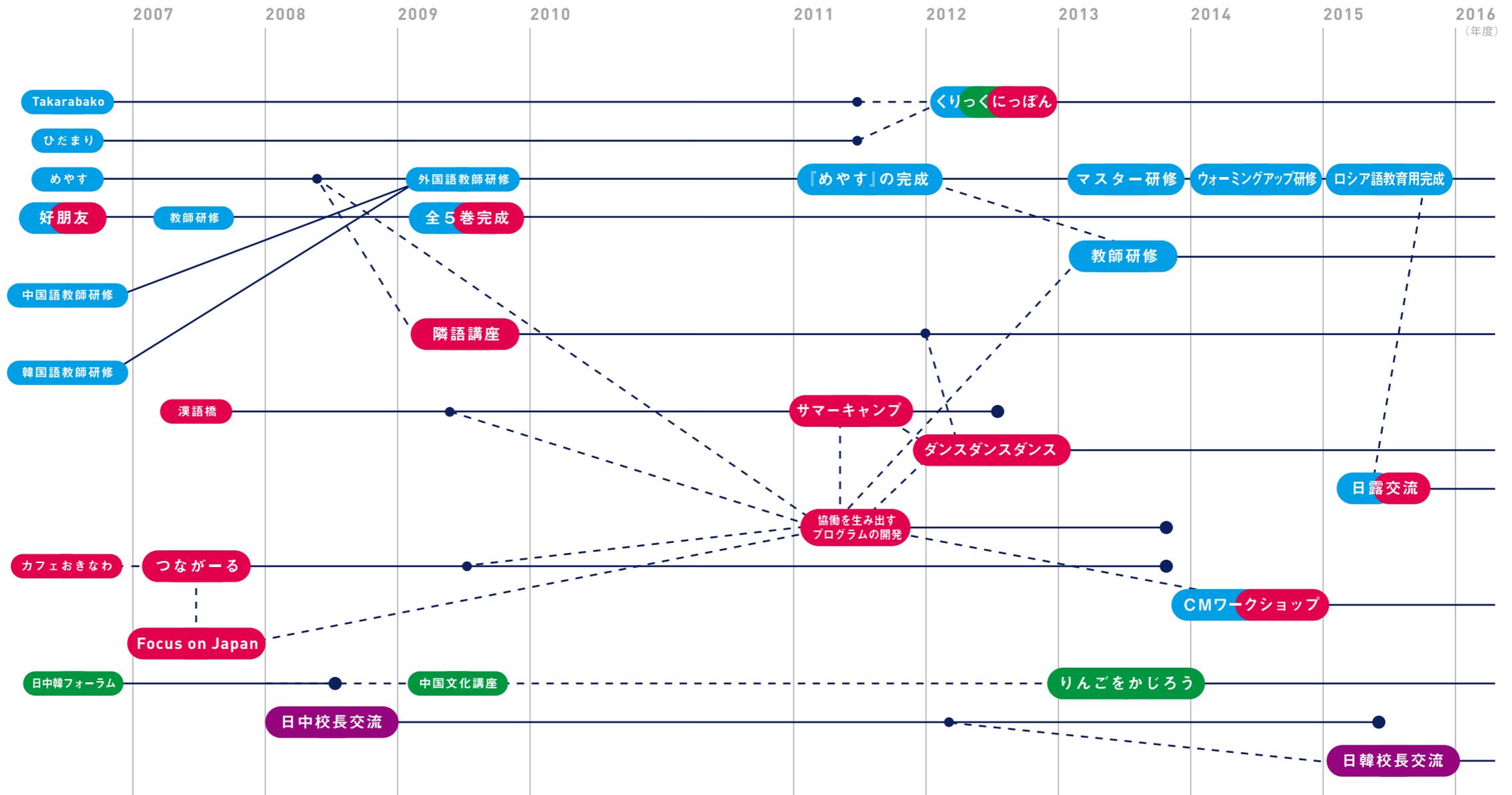
11...FU、15...SI、17...SH、19...MO、  
25...NH、27...MS、29...MU、31...WA、  
39...NN、43...CH、47...NI、55...MI

- 60 TJFを支援して下さった方々
- 65 歴代役員・顧問・事務局
- 69 TJF 2007-2016
- 81 財団の概要

# TJFの10年

2007年度から2016年度まで、ことばや文化の学びと交流に力を注いだ10年間だった。日中合同で中国第二外国語用日本語教材『好朋友』を制作した事業では、人間関係づくりをめざした日本語教育が提案された。また、「外国語学習のめやす」では、人間関係づくりから一歩踏み出し、社会を生きぬく力を育てることが、外国語教育の新しい役割であると提言した。教師研修、隣語講座など、ことばや文化の学びに関連するさまざまなプログラムにいかされている。交流事業では、互いのことばを学ぶ若い世代をつなげる機会づくりを行った。

TJFの交流プログラムは、参加者が知恵を出しあい、役割を分担しながら、学んだ外国語を使って新しいアイデアやモノをつくりあげることの特徴がある。次の世代の人びとが、新しい文化や人と「であい」「つながる」ための最初の一步を応援する。背中をそっと押してみる。そのために日中、日韓、日露の交流事業を行った。一つひとつの事業は独立して実施されているが、底を流れる思いは同じである。発案から、企画、実現に至るまで、さまざまな形をとり、複雑に結びつき、絡まりあいながら行い、常に深化することをめざしている。



# 『好朋友』 つながるための



『好朋友 ともだち』（試作版）第1巻が2007年8月に発行された。大連教育学院と合同で編集制作したもので、中国で初めての第二外国語教育用の教材だった。語彙や文法の説明は一切ない。巻頭に書き下ろしのストーリー漫画「大連物語」が置かれ、漫画のコマを取り出し、そのコマに関連する日本語表現が学べるように作られている。登場人物が相手に誕生日を聞いているコマを使うときには、学習者は月や日にちの言い方を知り自分の誕生日を言う活動が紹介される。横浜から大連の中学校に転校してきた主人公がクラスメートと友情を育むストーリーでは、友人をつくったり、ケンカをして仲直りしたりする表現が多く取り上げられている。

①



第2巻 p30 より

②

**学习活动**

请求同学允许自己看一下他（她）的东西吧！向同学借一下东西吧！

1. 今天是借书的第一天。禁止在向同学们问各种各样的事情呢！  
\* 你在同样的场合会怎么做呢？

老师的教案真可爱！我想看一下！	老师带来的杂志好像很有意思啊！
「見てもいい？」	「見てもいい？」
「いいよ。」	「うん。」

选那本颜色呢呀！什么的？啊，向老师借一下吧！	这个单词跟汉语怎么说呢？想查一下字典，跟老师借一下吧！
「借りてもいい？」	「借りてもいい？」
「どうぞ。」	「いいよ。」

祝賀者！

「見てもいい？ 借りてもいい？ —うん、いいよ。—どうぞ。」

第2巻 p67 より

## 第11課 身の回りのもの

- ① 漫画のコマを取り出す
- ↓
- ② コマで使われている表現や応用した表現を学ぶ活動
- ↓
- ③ いろいろなシチュエーションで言う活動

③

**想一想 说一说**

▶ 在这种情况下应该怎么说呢？

实际是否可以借时	
实际是否可以看时	
— 向对方要求时	
询问某物是否是对方或A的东西时	
— 肯定的回答	
— 否定的回答	
询问某物是谁的东西时	
— 回答	
说不知道某物是谁的东西时	

▶ 问问朋友吧！

足球真酷！好像很有意思。	想借对方的剪刀。
--------------	----------

第2巻 p73 より



p6、7の漫画  
© 幸森軍也・白井貴子/  
ダイナミックプロ

## 好朋友プロジェクトの始まり

2005年に遼寧省・大連市教育局副局長を含む教育代表団を日本に招聘したことがきっかけとなり、翌年に日本語教育奨励策が大連市教育局から発表された。それは大連市内すべての中高校(約280校)に日本語科目を開設することを目標とするというものであった。第一外国語として英語が選ばれている場合、日本語は第二外国語あるいは課外で開設することが奨励された。第二外国語としての日本語教育が位置づけられたのだ。しかし、第一外国語は受験を目的とするため、教える内容も文法や語彙・表現が中心であり、週あたりのコマ数も多い。一方、受験を意識しなくていい第二外国語では目標を何に置くのか、少ないコマ数で何を教えるのかなど決めなくてはならない課題が山積していた。これらの課題を解決し奨励策を進めるために、大連側の要請を受けTJFは全面的に協力することになった。

そして日中それぞれに編集委員会をつくり、共同で制作したのが『好朋友』だった。しかし、従来の教科書とは全く異なるため、教師は使い方に戸惑った。日中の編集委員が講師を務める研修を大連教育学院と共催した結果、大連市で第二外国語として日本語を教える学校は徐々に増え、2008年4月には27校、学習者は約5,200人に上った。

2009年に5巻目が刊行され、全巻がそろった。ストーリー漫画「大連物語」は102ページで完結した。このプロジェクトでは多額の資金が必要となったが、多くの日本企業や財団の協力があって実施できた。

大連の学校への日本語教育の導入は困難なことではない。困難なのは、困難だと思う人の頭を変えることだけです。(元大連市長)

第一外国語で日本語を学んだ生徒と第二外国語で学んだ生徒を日本に引率しました。学習時間数は短いのに、『好朋友』で学んだ第二外国語の生徒のほうが積極的に日本語で日本の生徒に話しかけていました。(日本語教師)

## 大連から東北三省へ

教育代表団の招聘に始まり、『好朋友』の制作、そして研修の実施によって大連市の日本語学習者は増えた。この成功をほかの地域、特に吉林省、黒龍江省、遼寧省の東北三省に広げたい。そのために行ったのが、教育行政のリーダーと日本語教育に力を入れている学校管理職の招聘、『好朋友』の寄贈、研修だった。

『好朋友』を寄贈した吉林省・長春第11高校では、日本語クラブの活動が始まると、50人の登録があった。さらに、副校長を招聘した後、学校が日本語教育をより熱心に推進するようになり、日本語クラブの登録が次の学期には150人、その次の学期には200人と学校でいちばん人気のあるクラブになった。『好朋友』にストーリー漫画が使われていたことも、日本のアニメや漫画が好きな生徒の関心に合致していた。

## 東北三省から全国へ

2013年1月には第1巻、第2巻の市販化を実現した。同時に、初めて手にする人でも使えるよう『好朋友』教師用指導書を制作した。使い方の解説とともに、すでに『好朋友』を使っている教師5名が作成したカリキュラムも掲載した。

2014年に国際交流基金北京日本文化センター、中国教育学会外国語教学専門委員会と共催で上海で開いたシンポジウム「グローバル人材の育成と多様な外国語教育」や、全国規模の日本語教育実施校ネットワークである中等日本語課程設置校工作研究会(現会員50校)の大会で『好朋友』を紹介し、寄贈の希望を募ったところ、河南省、広東省、江蘇省、湖南省、陝西省、上海、北京など東北三省以外の14校から申請があった。現在、15の省・市で『好朋友』が使われている。

2010年に『好朋友』のことをTJFから送られてくる情報誌『ひだまり』で知り、すぐに出版社に問い合わせました。すでに第二外国語として日本語の授業がスタートしていたからです。市販化されると、早速自分の授業で使い始めました。(福建省日本語教師)

## 日本文化が 体験できる場を

『好朋友』で紹介されている折り紙やキャラ弁、かるたなどを生徒が体験できるようにしたい。教師の声に応じて、2015年に「好朋友日本文化体験(体験)基地」を大連市第31中学につくり、浴衣やけん玉、ひな人形、絵本、四字熟語カードなど教師からリクエストのあった玩具や教材などを寄贈した。日本語を学習していなくても、周辺地域の中高校の教師や生徒ならここを利用できる。

大連に暮らす日本人たちが中心となって、浴衣の着付けや絵本の読み聞かせをすることも計画されている。眺めるだけでなく、体験してもらおう。上海、広州、ハルビンの学校にも体験の場ができる予定である。

私たちの学校にもうすぐ完成する「好朋友日本文化体験基地」は日本の伝統文化と現代文化が体験できる場所です。姉妹校との交流活動もここで行います。日本に関心のある他校の生徒や地域の人にも日本文化を知ってもらう場になると思います。(上海の日本語教師)



# FU

## 藤掛敏也

担当: Focus on Japan、りんごをかじろう、経理



### モヤモヤ

1997年から2006年まで開催した「高校生のフォトメッセージコンテスト」には、ありのままの高校生の姿を写した13,240枚の写真が集まりました。毎年制作した写真集に、すべての写真を掲載できなかったのが、担当者としての心残りでした。



### スッキリ

毎年必ず写真に写っていたものがあります。それは携帯電話です。フォトコンの10年は携帯電話が世の中に普及していった時代でした。さらに2007年からの10年を振り返ってみると、それはまさにスマホとSNSが、私たちの生活を大きく変えた期間だったと思います。今では、指先を少し動かすだけで、世界中の人にいくらかでも写真を見ることができるようになりました。スマホとSNSの普及が、私の無念を晴らしてくれました。

最近嬉しいことがありました。むかしバンコクで撮影した写真のモデルが17年ぶりにFacebookで連絡してきました。美術大学生のヌンは、結婚して3人のお母さんになっていました。今では人物や猫の絵が人気の画家として活躍しています。精悍な顔立ちの青年バースは、「いやあ、あれから15キロ以上も太っちゃってさ」と笑う、チャーミングなおじさんになっていました。なんだか学生時代の古い友人に再会した気分です。

「瞬間を記録する」「人と人をつなぐ」といった写真の魅力が、時代の変化をうけて、今また新たに広がっていると感じています。

photo© 藤掛敏也 (下段2点)

# 人に迫る



2012年10月、ウェブサイト「くりっくにっぽん」（日本語版、英語版、中国語版）を含め、TJFの日本情報発信は、全面的に姿を変えた。

リニューアル前の「くりっくにっぽん」は、若い人たちが関心をもっている**日本のモノ**を中心に紹介していた。しかし、モノの情報は氾濫していることから、モノではなく人にフォーカスした。

My Way Your Way、1/365（365分の1）、何コレ？マジコレ!? のコーナーを新設し、翌年3月には韓国語版を新たにオープンした。「人」を前面に打ち出したMy Way Your Wayでは、テーマを定め、人がなぜそのことにはまったのか、きっかけは何だったのかなど心の内に迫った。テーマ「ことばの力」では、詩人・和合亮一氏が東日本大震災後、福島の自宅に残りツイッターで次々と詩を発信し続けたときの心情を語り、詩のボクシングの高校生大会優勝者も登場している。

1/365では、高校生や大学生レポーターが「お月見」や「ひな祭り」などの伝統行事を新しい世代としてどのように行っているのか、それぞれの生活の様子をつづっている。

何コレ？マジコレ!? は、旅行や留学で日本にやってきた海外の高校生、大学生が発見した「日本」を写真とキャプションで紹介することをめざしたが、作品が集まらずコーナーを閉じることとした。

My Way Your Wayで中学生の良太が自分でつくった詩を朗読しているのを見て、心にじ〜んと響きました。（オーストラリア高校生）

日本の文化を考えないといけなくなって、日本に住んでいても周りに興味をもたず生活していたことに気づいた。（武蔵野美術大学留学生）

生徒から「原宿に行ったら、本当になんちゃって制服のお店があった！」とメールがきました。ホンモノで教えるってこういうことなんですね。（オーストラリアの日本語教師）

## 日本語の授業で活用

2013年からは韓国、オーストラリア、ニュージーランドで日本語教師向けにワークショップを実施した。多くのワークショップでは、教えるためにつくられた教材ではなく、一般の記事を使うことの意義を日本語教育専門家が話したあと、参加者は「くりっくにっぽん」の記事を使った授業案を作成する。

長く海外に暮らす日本人教師は1/365の「バレンタインデー」で40人に友チョコを渡したという記事に刺激を受け、韓国の教師は「父の日」「母の日」の記事から、韓国にある「親の日」と比較する授業案をつくった。いちばん人気だったのは、My Way Your Wayに登場する「なんちゃって制服」をデザイン、販売する社長の記事で、ワークショップでつくった案で実際に多くの授業が行われ、韓国、オーストラリア、ニュージーランドで高校生が考える制服のデザインができあがった。

## 学生が発信

外部の視点を導入する試みとして、2012年に横田雅弘・明治大学教授、2016年には三代純平・武蔵野美術大学准教授の授業で、学生たちの企画、インタビュー、記事づくりに協力した。「日本の魅力を再発見して世界に発信する」ことをミッションとする明治大学国際日本学部2年生の横田ゼミで学生たちが企画したのは、「アイドルは好きですか？」と「デコで気持ちを伝える」の2つ。

三代准教授の日本事情の授業では、留学生が「『キモカワ』はキモいの？ カワイイの？」「銭湯の魅力ってなんだ？」をテーマに選んだ。これらの記事は2016年に新しく開設したウェブサイト「ときめき取材記」に掲載している。

## 授業に役立つ素材の提供

# ヒントはそこに

海外の小中高校の日本語教育と国内の高校の中国語教育で利用できる素材を提供してきた。

日本語教師向け情報誌『Takarabako』（英語版、2004年創刊）と『ひだまり』（中国語版、1999年創刊）では、お弁当、ゲーム、ロボットなど日本で話題になっていることを取り上げ、さまざまな角度から紹介した。『Takarabako』は英語圏の小中高校、『ひだまり』は中国の中高校の日本語教師に送付した。日本の中国語教師向け情報誌『小溪』（1999年創刊）には中国語教師から寄せてもらった「中国語との出会い」のエッセーや授業のヒント、教師や生徒が参加できる研修や大会の情報などを掲載した。これら3誌は季刊であったため、情報発信の速度の点から2011年に休刊しウェブサイトへ移行することとなった。

写真データベースとしてウェブサイト開設した「TJF Photo Data Bank」では日本編と中国編を設け、登録すれば教育目的に限り無料で使用できるようにした。2008年、登録者数は過去最高の7,900人に達し、収録枚数は日本編約3,800枚、中国編約2,000枚だった。日本編は高校生の日常生活や年中行事が中心で、クリスマスや初詣など季節にそった写真の人气が高かった。中国編には、伝統文化や行事、名所旧跡、地域の風景などを収録した。

多くの人に活用されたが、写真を無償で提供する規模の大きなウェブサイトが複数出現したことで、TJFが独自に写真データベースを維持する必要はなくなり、2010年に写真の共有を目的とした世界最大級のコミュニティサイト Flickr（フリッカー）に「TJF Photo Data Bank」ページをつくり掲載写真を移行した。

# SI

シム ヒョン ミン  
沈炫旻

担当：わやわや、ソウルでダンス・ダンス・ダンス、日韓の校長交流



## モヤモヤ

入局してからの4年間を振り返って、いちばんモヤモヤしたこと……それはTJFの「アナログ」なところですね。私にとってTJFは3社めで、以前勤めた会社はどちらもIT関係の会社で社員も500人以上でした。当然業務では効率が最も重視され、デジタル化が進んでいました（正直、特にデジタル化されているとも意識したことがなく、ごくふつうだと思っていました）。それがTJFに入ると、いきなりシャチハタを毎日のように押す日々になりました。勤怠申告を一つ例に挙げると、TJFでは有休も残業も出張もすべて紙上に手書きで書き、所定の場所に入れ、それを上司が一つひとつ確認し、シャチハタを押してまた所定の場所に戻すというシステムです。今まではワンクリックで申請し、上司の承認もワンクリック、承認完了後は自動メールで知らせが来ていたのが一変して、突然過去にタイムスリップしたような感じでした。古いやり方で手間がかかる……とモヤモヤしました。

## スツキリ

効率と会社の売上げが重視される環境ではできなかった仕事が、今はできています。プログラムの中身をとことん考えぬいて決めたり、協力団体と話し合いを重ねて信頼関係を築いたり。過程において真剣に悩み、丁寧に向きあうことができる。仕事をしていて自分の心のなかで何かがキラッと輝くような感覚があります。時間も手間もかかって大変な時もありますが、TJFのこういう「アナログ」なところが、私は好きです。

# 小さな町に 生き続ける日本語

2011年度から3年度にわたり米国中西部にあるウィスコンシン州メナーシャ市の日本語教育に対し特別寄付を実施した。TJF 理事長として、この地域の日本語教育を 1990年代から支援し、公益財団法人では評議員会長への就任が予定されていた野間佐和子氏が、移行を2日後に控えた2011年3月30日に亡くなられたことを受け、その名を冠することとした。「World Language Fair は Sawako Noma Memorial Endowment によって可能になりました」と2014年3月に開催されたフェアで、当時のクリス・バンダーハイデン教育長が謝意を示した。

2010年10月に当時のコビルスキー教育長と日本語教育に熱心な小中高校の校長を招聘した際に特別寄付が検討された。子どもたちが21世紀を生きていく力を育成する科目として World Language (外国語教育) を位置づけ、その中核に日本語をすえる構想を教育長が明かしたからだ。メナーシャ市は小中高校一貫の日本語教育を実施していたが、教育予算の削減で継続が不透明になっていた。

特別寄付金は、地域の人たちが利用できるオンライン日本語教育プログラムの開発につながり、日本語を履修している生徒が日本文化を体験する遠足などに今も使われている。

子どもたちは、バスで3時間以上かけてシカゴにある日本の商品が売られているスーパーや日本庭園に行ったことをよく覚えています。寄付金で実現した活動が、どれほど多くの子どもたちに役に立ったかを物語っていると思います。(中高校の日本語教師)

# SH

## 柴田幹子

担当: 総務



### モヤモヤ

TJF では間接的にですが子どもたちと関わり、そこで生き生きと成長する彼らの姿を見ることは大きな喜びです。その一方で、日本でも貧困が子どもの将来を阻んでいます。給食が命綱の子ども。一家を支えるため高校を中退する子ども。生きていくだけで精一杯の彼らと、人生を選択できる子どもたち。TJF に入ったことにより、私のなかでその格差はさらに際立ち、私に暗澹とした問いを投げかけます。子どもの貧困対策法が成立して4年。子どもたちの活躍を願う財団に勤めている私に何ができるのか。もやもやしながら暗中模索の日々です。

### スツキリ

日頃は総務担当の私ですが、30周年については珍しく記念品作成に携りました。年賀状の代わりに記念になるものを正月に届けましょうということになり、デザイナーさんと上司とアイデアを出し合い、最後にたどりついたのが付箋紙でした。こんな小さい付箋紙、結構ラクにできるでしょと甘く見ていましたが大間違い。果てしないデザイン変更、印刷会社さんとの相談、各言語への翻訳、厚さと重さとの闘い、納品は間に合うのかという恐怖。発送業者から発送完了と聞いたときは本当にホッとしました。そして何より、皆さまから「素敵な付箋紙をありがとう」とお褒めの言葉を頂いたときの嬉しさ。つくって良かった！ とすっきりの私でした(その時お世話になった皆さま、本当にありがとうございました)。



## 中国語と韓国語の教師研修

# 仲間と 机を並べる



日本の高校中国語教師に特化した中国での研修はほかにない。是非続けてほしいという要望が、2004年から中国長春の吉林大学で実施されていた長春研修に寄せられた。2008年に5年計画の最終年を迎えたときだ。共催者である文部科学省、在日中国大使館教育処と協議し、2012年まで延長することとなった。

一方、短期間の研修だったら参加できるのに、という声もあった。それに応えるため、2006年からは新たに1日型、2日型の研修も国内の各地で、北九州市立大学、桜美林大学孔子学院、関西大学などと共催した。

韓国語の教師研修は、すでに1998年に始まっている。2004年には対象を高校教師に限らず、市民講座などさまざまな場所で韓国語を教えている人にまで広げたが、この形も2009年の福岡をもって、共催事業としては終了する。

2009年からは中国語と韓国語の合同教師研修を開始した。高校の中国語と韓国語のためにつくられた『高等学校の中国語と韓国語朝鮮語 学習のめやす(試行版)』を実際に使って検証し、新たな「めやす」の作成に向けてフィードバックを得るためだった。5日間の日程のうち、前半2日は「めやす」の理論や方法についての講義、後半3日は中国語と韓国語それぞれにわかれ授業案を作成するという内容だった。この研修は2012年まで続いた。

韓国語の先生と親しくなれた。こんなに頑張っている先生がいると知って元気づけられた。(2009年の合同研修に参加した中国語教師)

# mo

## 森亮介

担当: ウェブサイト、くりっくにっぼん、わやわや



### モヤモヤ

ウェブサイトの制作担当者として、どうやったら多くの人に見てもらえるのか、そもそも誰が見るものなのか、常に考えてきました。

「めやす Web」は、「外国語学習のめやす」を使って授業づくりをする先生たちが必要な情報を取り出しやすくするために、事業担当者とゼロからアイデアを出し合ってつくりました。このとき困ったのは、先生たちがどんな段取りで授業の準備をするのか、どんなキーワードで情報を探すのがよくわからないことでした。担当者はそのことを知っていてもウェブサイトのワークフローは熟知していない。どうすりあわせをしたらいいのか悩みました。しかも、スマートフォンが使われるようになってきた時期でもあったので、小さな画面でどのくらいの量の情報をどういう順番で出せばいいのかも考えなくてはいけませんでした。

ウェブサイトをリリースしたら仕事は一段落なのですが、ユーザーの役に立つものにならない限り、自分の仕事が終わらない。これがいちばんもやもやしていることです。

### スツキリ

中高生対象の「ソウルでダンス・ダンス・ダンス」のウェブサイトでは、2回めの募集に先立ち前年の様子を紹介する動画をつくって載せることにしました。動画を見て応募してくれた生徒たちがいる。学校の先生たちが動画を見て自分の生徒に勧めてくれた。応募者数増につながることがわかって、ああ良かったなと思いました。

# 新しい役割を 外国語教育に



2007年3月、『高等学校の中国語と韓国朝鮮語 学習のめやす(試行版)』を発行した。2005年度から高校・大学の教師19名と取り組んでいた文部科学省の委嘱事業「高等学校における外国語教育の目標・内容・方法に関する研究」の報告書でもあった。高校の学習指導要領には英語以外の外国語については具体的な記述がなく、ガイドラインづくりが長年の課題となっていた。

試行版では、従来のように文法を積み上げるのではなく、学んだ中国語、韓国語を使ってどのようなコミュニケーションができるようになるのかという目標を can-do で示した。試行版としたのは、これらのコミュニケーション指標を実際に現場

中国語と韓国語のみならず、すべての外国語教育のアプローチが変わるきっかけになると確信しています。(高校英語教師)

の教師に使ってもらい、そのフィードバックをうけて完成版をつくりたいという思いがあったからだ。

そして2009年、完成版に向けて新たなプロジェクトを立ち上げた。何回もの議論を重ね、コミュニケーション指標を充実させるだけでなく、21世紀に必要とされるスキルの育成、人間的成長を促す外国語教育をめざし、そのための内容と方法を提示することがメンバー間で共有された。さらに、学習者が教室内だけでなく、学習した言語を現実の社会で使って同世代と交流できるようになることも重要な目的として掲げられた。

そして3年後に発表したのが『外国語学習のめやす2012 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』(以下、「めやす」)だ。5,000部発行し、教育関係者や希望者に配布したところ、1年を待たずしてすべてなくなったが、その後も配布を希望する声が多く寄せられたことから、can-do 指標を新たにブックインブックとして加え、市販版を発行することとした。

「めやす」を取り入れると、初級レベルでも生徒の興味に応じられます。(外国語教育コーディネーター)



## マスターの誕生



photo© 但馬一憲

「めやす」はすべての外国語教育に共通する理念や目標を掲げている。しかし、副題に中国語と韓国語教育が入っていることから「中国語と韓国語のためのもの」と判断する人も多くいた。

その誤解を解くために、さまざまな言語の教師に「めやす」の理念や目標、方法などを理解してもらい、実際にどうやって活用できるのかを体験できる場をつくることにした。それが、8言語（英・韓・西・中・独・日・仏・露）の高校、大学の教師を対象に2013年から3年計画で始めた「めやすマスター」研修だ。3泊4日の夏の研修で授業案をつくり、秋に各自の現場でその授業を実践、その後1泊2日の研修で経過と結果を報告する。3年間で研修修了者は55人。「めやす」の理解者でもあり、実践者でもあるめやすマスターの誕生である。

マスターが企画、実施する「めやす」ワークショップやセミナーは、「めやす」について知りたい、活用したい人たちが対象である。異なる言語のマスターが合同で実施するケースもある。国内だけでなく海外でもワークショップを実施したり、学会や研究会で発表したりするマスターも多く、「めやす」は大きな広がりを見せている。

## 「めやす」のキーコンセプト：3 × 3 + 3

『外国語学習のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』で掲げた目標は「人間形成とグローバル社会を生きていく力の育成」であり、そのために必要な力として示されたのが、3 × 3 + 3（スリー・バイ・スリー・プラス・スリー）だった。

### 3領域×3能力+3連繋

能力 領域	わかる	できる	つながる
言語	自他の言語がわかる	学習対象言語を運用できる	学習対象言語を使って他者とつながる
文化	自他の文化がわかる	多様な文化を運用できる	多様な文化的背景をもつ人とつながる
グローバル社会	グローバル社会の特徴や課題がわかる	21世紀型スキルを運用できる	グローバル社会とつながる

+

連繋	関心・意欲・態度／学習スタイルとつながる 既習内容・経験／他教科の内容とつながる 教室の外の人・モノ・情報とつながる
----	------------------------------------------------------------------

## 小中高校の教師研修

# 先生も チャレンジャー



2013年度から當作靖彦・カリフォルニア大学サンディエゴ校教授を講師に迎えてレクチャーやワークショップを行った。グローバル化、情報化が進む社会で何が起きているか、その影響で教育がどのように変化しているのかを豊富な事例をもとに解き明かし、小中高校生に必要な資質や能力を示して、これを育てるための具体的な教育方法を紹介した。2013年度は高度の思考力を養う読解活動、2014年度から2016年度は主体性や思考力、表現力、課題解決力などを引き出す評価方法に焦点をあてた。4年間で大阪、沖縄、北海道、東京、福岡を会場に15回の研修を開催し、延べ1,200人以上の教師が参加した。特に、「評価」は教育現場の関心が高く、同内容の研修を當作教授に依頼する教育委員会も現れた。

2015年度からは、稲垣忠・東北学院大学准教授によるプロジェクト学習のワークショップを開始した。主体性や協働力を発揮させる学習方法として教師の関心が高いため、具体的な方法を学ぶ機会をつくった。「インタビュー」「観察・実験」「プレゼンテーション」など21枚の学習活動カードを使って、「情報の収集・編集・発信」の3つのステップを組み立てていくと、1日でプロジェクト学習の活動案を作成できる。すぐに実践に役立てられると参加者の満足度が高かった。

プロジェクト学習は授業計画をつくるのに時間がかかるので避けていたが、1日でここまで設計できることがわかった。(参加教師)

今の教育の流れの背景にどういふことがあるのかよくわかった。グローバル化が進む社会で何が起きているのか生徒に説明できる具体的なことばをもてた。(参加教師)

# nH

## 長江春子

担当: 日中の高校生サマーキャンプ、  
外国語学習のめやす、日露交流



### モヤモヤ

この10年、中国の日本語教育支援、中国語を学ぶ高校生の中国派遣、高校中国語教師の訪中研修、日中校長交流、中国文化理解講座や土曜中国語講座、「外国語学習のめやす」プロジェクトなどを担当してきました。その間、「もやもや」があったとすれば、2つほど挙げられます。1つめは「隣語」を大切にすることをなかで、日中、日韓における互いの言語教育の支援と交流に注力してきたが、日露交流は手付かずだったこと。2つめは、「多様な文化とのつながり」を大切にすることをなかで、国内の多文化共生の分野に進出していなかったことです。

### スツキリ

2015年、「外国語学習のめやす」マスター有志の協力により、「めやす」のロシア語版を完成させたのを機に、日露交流プログラムを立ち上げることができたのは、私にとって大きな「すつきり」でした。以来、隔年での招聘と派遣、日露教師研修、日露高校生交流、ロシアの初等日本語教育実施校への日本語図書・教材の寄贈が実現しています。個人的にはスタッフ研修制度を利用して、2016年4月からロシア語講座に通いはじめ、ロシア語の難しさとおもしろさや、ロシア人とロシア文化の魅力を体感中です。

また、2016年度から準備を始めた財団設立30周年記念事業企画として、多文化共生について多様な高校生が共に学ぶ、多言語・多文化交流「パフォーマンス合宿」を提案し、2017年度の実施が承認されたことで、とりあえず「すつきり」しました。しかし、チャレンジは始まったばかり……。

## 隣語講座

# はじめの 一歩



学校の外で学べる場をつくる。そうすればもっと多くの中高生が中国語や韓国語を学ぶ機会ができる。神奈川県私立中学高等学校協会が協力してくれることになり、2009年度、私学協会主催の土曜中国語講座が実施された。中国の友だちに自分のことが伝えられるようになることを目標に6回の講座にした。

学校で新規開講するには、カリキュラムの変更、講師確保などハードルが高い。その後も、桜美林大学孔子学院、ISI国際学院とも共催で講座を実施し、中国語を学ぶ機会が広がった。

2010年度には駐日韓国大使館韓国文化院<sup>セジョンハクタン</sup>世宗学堂と共催し、土曜日に韓国語講座を始めた。初心者でも応募しやすいスピーチコンテストへの参加も組み込んだ、親しみやすい1年間の講座だ。毎年募集が始まるとすぐに定員に達する。

2013年度からは、中高生が関心をもつテーマを取り上げ、ことばや文化にふれる1日体験講座も実施した。カラオケボックスで好きなK-POPの曲を歌えるようになること、中国語でボードゲームを楽しむことを目標に講座を実施し、学んだことばで同世代の仲間と交流する場も設けた。

それまでは趣味もなく部活に打ち込むわけでもなかったが、世宗学堂で同世代の友だちと韓国語を学ぶことで刺激を受け韓国語に夢中になった。韓国語がすべてのモチベーションになり、どんどん行動を起こせるようになった。(2013年度韓国語講座参加者)

photo© 北郷仁

# ms

## 宮川咲

担当: ソウルでダンス・ダンス・ダンス、  
好朋友、日中の校長交流



## モヤモヤ

プログラムの0から10まで担当者が創るTJFでは、たくさんの細かな作業があり、1つの交流プログラムの当日を迎えるまでに半年以上の時間がかかります(私は経験が浅いため先輩方より更に時間がかかります)。長く担当した日韓生徒交流プログラムは、企画から始まり、関係者への協力依頼、ホテル・航空券予約、募集、選考、生徒・保護者とのやり取り、更には備品購入、記念品作成など挙げればきりがありません。毎日違う職業に就いているようにも感じ、「今日は旅行会社の人」「今日はテレアポの人」など新しい気持ちで臨めるのはいいのですが……。プログラムに外食する日程があったときには、総勢50名の団体での食事をスムーズにするため何週間も前から各人に食べたいものを選んでもらう必要がありました。「ソウル3日めのお昼、写真のなかのどれが食べたいですか」との質問を全員に送り表にまとめる。このやり取りをしていたとき、あれれ、この小さな作業は一体なにに繋がっているのかとわからなくなっていました。

## スツキリ

それから1ヵ月後。プログラム当日を迎え、参加者全員とやっと会えたとき、外食時のご飯が早く出てきてスムーズだったとき、そしてなにより全員がさまざまな経験を積み、多くのことを感じて新たな挑戦に繋げようとしてくれる姿を見たとき、「あー、このためだったんだ、全てが必要なことだったんだ」と心から納得。重ねてきた小さな作業が形になったのがわかり、この瞬間のためにこれからも頑張ろうと思えたのです。

## 韓国語学習者のサポート

# 「話してみたい」 ができる

2008年3月に始まり、TJFが第3回大会まで共催し、事務局を務めたクムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会には毎回500名近い応募があった。韓国語が



できる、できないにかかわらず、韓国や韓国語に関心をもっていれば参加できることがこの大会の大きな特徴だ。クムホ・アジアナ杯を始めるにあたってベースにしたのは、2003年に駐日韓国大使館韓国文化院とTJFが立ち上げた初級学習者のための大会「話してみよう韓国語」だった。指定された台本を2人1組で覚えて演じる「スキット部門」を設けていた。空欄になっている台本の一部を自分たちで工夫して創作する。東京、大阪など各地で地方大会を実施していた。

これらの地方大会を予選として位置づけ、上位入賞者に本選であるクムホ・アジアナ杯大会への出場権を与える形にした。さらに韓国語を学んでいなくても参加できるように、エッセイに韓国語を1語以上含めることが課題の「日本語エッセイ部門」を設けた。第1回を実施して明らかになったのは、学校以外で韓国語を学ぶ高校生が6割もいたことである。スピーチ部門では学校外で学ぶ高校生も入賞した。さらに、親に影響を受けたり、K-POPが好きだったり、と韓国語を学ぶ理由もさまざまだった。

クムホ・アジアナ文化財団、韓国文化院、日中韓文化交流フォーラム、TJFの共催でスタートしたこの大会は韓国語の甲子園と呼ばれるまでになった。

# mu

## 室中直美

担当：協働を生み出すプログラムの開発、  
CMづくりワークショップ、日中の高校生サマー  
キャンプ



### モヤモヤ

会議や打ち合わせで、ポイントがズレていっていることを感じながら、上手に軌道修正できないとき。話したいことの核心は何かということ、その場で捉えて言語化できるようになりたい。この10年くらいの自分のテーマなのですが、なかなかそこにたどりつけずにもやもや、モンモン、どろーんとしております。

### スツキリ

プロジェクトの内容をよくするために、率直に粘り強く議論を重ねて、いいアイデアにたどりついたとき。なかなか答えが出ないことをおもしろがって考えてくださる方たちと、思いつきを楽しく語り合ったり、ときには喧嘩腰になったり、出せるものは出しつくしてへろへろになったりしながらも格闘を続けていると、ほぼ同時に「あ！これだ！」というアイデアにたどりつくことがあります。これは、スツキリ！ほんとに気持ちよく、コーフンする瞬間です。そういうことを一緒にやってくださる方たちとの出会いに恵まれた10年でした。

## 日中韓フォーラム

# 違うようで同じ、 同じようで違う



身近なテーマで、日本、中国、韓国のことばと文化について考えるフォーラムを2006年度から3年にわたって実施した。すでに2002年度から韓国文化院と共催で始めていたフォーラムに、在日中国大使館教育処に共催者として加わってもらい「日中韓フォーラム」が始まった。

2007年度のテーマは「民話」。韓国の「ウサギと海亀」と日本の「猿の生き肝」は、竜宮城の乙姫様の病気を治すために動物の生き胆が必要になり、亀がその動物を竜宮城に連れてくる話でストーリーはほぼ同じだ。ところが連れてこられる動物が韓国ではウサギ、日本では猿。ウサギや猿が日本と韓国でどう見られているか、どう親しまれているかの違いについて話し合われた。

2008年度は「食」。ともに日本に長く暮らす中国料理研究家と韓国料理研究家の対談形式で進められた。肉味噌を使った麺として中国には北京名物のジャージャー麺、韓国にはチャジャン麺、日本では盛岡に名物じゃじゃ麺がある。どの麺も具や食べ方はほぼ一緒で、伝わってきた道すじと由来が話題となった。

毎回100名を超える参加者が集まったが、2009年度は韓国文化院が独自に岩手大学と共催し、東アジア文化比較フォーラム2009～韓日中の食と酒と言葉～を実施することにしたため、三者共催の日中韓フォーラムは2008年度をもって終了とした。

### おふくろの味、日中韓

登壇者のおふたりは「韓国ではいい嫁になるには12種類のキムチを漬けれなければならない」「餃子の自身のバリエーションは無限。365日毎日違う餃子を作ることができる」と日々の食卓についても語り合いました。日本でいう「おふくろの味」。味噌汁のだしや味噌の種類、具は何にするのか、に通じるものです。

# W.A

## 渡邊幸治

代表理事 理事長



### モヤモヤ

中国をもっと理解したいという思いから、<sup>よかい</sup> 70を過ぎて北京で4ヵ月間、中国語を学びました。2005年のことです。四声と簡体字と格闘する日々でしたが、タクシーでは必ず助手席に乗り、ドライバーに聞いていたことがあります。「一人っ子政策だけど、2人めはほしいか」と。すると、1人を養うのも大変だから2人めはいらない、と答える人がほとんどでした。そういう会話ができるぐらいにはなっていたんです。しかし、TJFに戻ってきて実際に使えるかと思ったけれども、できなかった。いったいの4ヵ月はどうなってしまったんだろうと今も、もやもやが続いています。

### スツキリ

この10年ですっきりしたことは2つ。1つめはTJFで日露交流が始まったことです。1994年から3年間、外交官としてモスクワに勤務していたこともあって、ロシアとの交流がTJFでできればいいなとずっと思っていました。ロシアは中国、韓国と同様、隣国ですから、いい関係を築いていかないとはいけません。

もう1つのすっきりは、中国で第二外国語教育用の日本語教材『好朋友』ができたことです。国際語である英語が第一外国語として優勢になるのは仕方のないことですから、日本語教育が存続していくために第二外国語の道が開かれたことは本当によかったと思います。ロシアでも中国でも高校生から交流できることは相互理解のためにもとても重要です。



2015年8月、千葉県の房総半島にある生命の森リゾートで、日本でロシア語を教える先生10名と、ロシアで日本語を教える先生6名が出会った。ロシアはモスクワ、ノボシビルスクから、日本は北海道、青森、秋田、新潟、富山、東京から集った。TJFにとって初めての日露交流プログラムだった。

そして翌2016年9月、日本の高校のロシア語教師とロシア語を学ぶ生徒計19名がモスクワとノボシビルスクを訪れ

# ノボシビルスクに 行ってみた

た。理数系の学校、音楽学校、ロシア正教会などを訪ね、ロシアの生徒と交流し、ホームステイも経験した。ノボシビルスクはシベリア地方にある大きな都市だが、日本からの直行便はない。モスクワで乗り換えてさらに4時間かかる。7日間で2ヵ所の訪問はタイトなスケジュールだが、首都モスクワだけではわからないロシアを知ることができる。ノボシビルスクは札幌と姉妹都市を締結していることもあって、もともと日本語教育は盛んだが、日本の高校生と交流したあと、日本語履修希望者が倍増した学校もあった。

日露交流のきっかけは、「外国語学習のめやす」を手にした横井幸子・大阪大学助教の、これを「高校のロシア語教育にいかしたい」という熱い思いだった。2015年2月に林田理恵・大阪大学大学院教授にも加わってもらい「ロシア語教育用のめやす」のプロジェクトを立ち上げ、1年で刊行にこぎつけた。

日本でロシア語教育を実施している高校は30校。一方、ロシアで日本語教育を実施している学校も約30校。教室を外の社会とつなぐこと、学んだことばで人とつながるという「外国語学習のめやす」の理念が日露交流につながったのだ。

今回のプログラムでよかったことは、さまざまな学校、施設、場所に行けたことだ。特にノボシビルスクとモスクワの両方に行けたことは大きいと思う。なぜなら、その場、その土地で人びとの考え方は変わるからだ。  
(2016年度ロシア派遣プログラム参加生徒)

北海道にとってロシアは最も近い隣国です。もっとロシアやロシアの人びとのことを知るためにも交流は大切です。(2016年度ロシア派遣プログラム参加教師)

p32上：ノボシビルスク工科大学附属ITリツェイで春のお祭りの踊りを体験  
p32下：ノボシビルスクの音楽学校で民族舞踊と一緒に踊った

# 出番です 校長の



「日本に姉妹校がほしいんです」  
「日本の高校と交流したいんです」

こんな声が中国や韓国の日本語教師から寄せられた。高校で中国語や韓国語を教える教師とのネットワークはあるものの、受け入れ先を探すのは容易なことではない。一日の交流でも学校全体の行事になるからだ。

しかし校長がその気になれば学校は動く。そのためには、校長が中国や韓国を訪れ、日本語教育実施校を見学したり、教育関係者と交流することで互いの理解を深めることが必要だ。2008年度から中国語や中国文化の海外への普及を担う教育部の直属機関である国家漢弁<sup>ハンバン</sup>の委託を受け、高校の校長を中国に派遣するプログラムをスタートした。社会情勢の変化によって漢弁の委託は2011年度で終了したが、その後もTJFの主催事業として実施した。姉妹校の協定を結ぶまでにはいたらなかったが、中国から日本語教師や生徒を招聘したときに、受け入れ校として手を挙げてくれた校長は何人もいた。

これまで国際交流は好きな人がやればいいと思っていたが、今回のプログラムに参加してそうではないと思った。自分の学校でももっと国際交流をやっていききたい。  
(2015年度韓国派遣プログラム参加者)

2015年度からは、韓国との交流に関心をもつ高校の校長を韓国に派遣するプログラムを開始した。この韓国版では日本語教育実施校の校長と交流するだけでなく、日本語を学ぶ生徒やソウルの大学に留学している日本の学生たちとも話す機会を設けた。印象に残っていることとして、日本語のレベルの高さと礼儀正しさ、勉強に打ち込む姿を挙げる校長は多い。

2016年度は夏に校長を韓国に派遣するだけでなく、日本政府の「21世紀東アジア青少年大交流計画」を活用し、日本の校長と交流した韓国の校長を秋に日本に招聘することができた。交流を重ねることで互いの教育に対する情熱をよく知ることになり、姉妹校締結を結んだ学校も2組誕生した。東京都立日比谷高等学校とミチュホル外国語高等学校(仁川市)、神奈川県立弥栄高等学校と東灘中央高等学校(京畿道)だ。さらに神田女学園中学校高等学校とソウル女子高等学校は協定の締結に向け準備を進めている。



# 咱们サマキャン见！



2007年8月21日、100個のスーツケースが成田空港に並んだ。この日、中国語を学んでいる高校生が10日間の中国研修に参加するため北京に向けて出発した。自分が学んでいる中国語を実際に使ってみて通じること、通じないことを体験すれば、学習意欲は高まる。

漢弁が、すでに実施していた世界の高校生対象のサマキャンに、日本の高校生100人を加えたのだ。この枠を設ける計画があることを在日中国大使館教育処一等書記官の胡志平氏から初めて知らされたのは、プログラム実施の半年前だった。中国教育部、漢弁、文部科学省と

photo©大木茂（2点とも）

高校の中国語教師研修をすでに共催していた実績から、TJFはプログラムの企画から実施までを任された。中国の受け入れ機関との協議を終え、募集要項ができたのは6月に入ってから。募集期間はわずか20日だったが、108校280人から応募書類が届いた。

サマキャンの中国語の授業では自己紹介、買い物、食などのテーマごとに表現を学ぶ。買い物のテーマで練習した「再便宜一点儿，好吗？（もっと安くして）」を、市場に行き使ってみる。多くの生徒が、信じられないくらい安い値段でお土産をたくさん買えたと喜んだ。参加者からは、「本場で中国語を使える楽しさ、現地の人と交流できるうれしさを感じた」と感想が上がった。

2回目となる2008年は、交流の時間を長くするため、日本語教育が盛んな東北三省で日本語を学ぶ高校生のための日本語研修を同じ会場で実施した。日本語の授業のほか、総勢約140名と一緒に日本料理を食べたり、中国伝統文化である切り絵体験や京劇鑑賞、餃子づくりも行った。寝食を共にしながら生活することで、相互理解が深まり、プログラム終了後の継続交流につながることをねらったが、サマキャンと日本語研修の合同開催は運営上の負担が大きく、2009年、2010年は中国の日本語学習者のための研修は実施しなかった。

日本全国や中国に友だちができた。この絆がとても自分に自信をもたせるものとなった。内向的になりがちだった自分が、研修のおかげで本当に成長することができた。（2007年に参加した日本の高校生）

## コラボレーション重視の交流にリニューアル

サマキャンは2011年に、「来場者が楽しめる体験型のサマキャン☆文化祭」を企画、準備し、主催するプロジェクトに参加者が一緒に取り組む交流プログラムへとリニューアルした。中国語を学ぶ日本の高校生90名と日本語を学ぶ中国の高校生46名、計136名が合宿をする「互いのことばを学ぶ日中高校生のサマキャン」のスタートだ。

再び合同開催が実現したのは、日本語教育に力を入れており、TJFの事業に協

力してくれていた長春市の日章学園高校が受け入れ機関として手を挙げてくれたことによる。学生寮があり日中の学生が寝食を共にできるなどの条件がそろっていた。

期間中に行った日本語や中国語の授業では、サマキャン☆文化祭づくりでコラボレーションするときに必要な表現を学べるようにした。そのために作成したのが日本語と中国語の表現を集めた「覚えて使おう！ ひとつこと集」だ。アイデアを出し合い議論するときには使える表現「有什么其他的想法吗？（何かほかのアイデアがありますか）や「我认为○○更好。（私は○○のほうがいいと思います）」などが載っている。TJFの日韓交流や日露交流のためにつくるひとつこと集にもこの考え方は引き継がれている。

引率教師から「生徒と教師の両方に学びがあり、成果の大きいプログラム。ぜひ継続してほしい」との要望があったが、漢弁から2013年にしばらく委託を延期するという知らせがあり、2013年は実施を見送った。その後、PM2.5の影響で、高校生の中国派遣はしばらく難しいと判断し、中国の日本語学習者を校長と一緒に招聘し日本の中国語学習者と交流するプログラムを2014、2015年に実施した。



文化祭で本当に交流した一っ感がある。中国語、日本語、ジェスチャー、いろんなものを使って伝えようと格闘しているうちに、コミュニケーションの引き出しが増えた。(2011年に参加した日本の高校生)

mn

## 中野敦

担当：外国語学習のめやす、ソウルでダンス・ダンス・ダンス、隣語講座



### モヤモヤ

グローバル化がキーワードのように連呼されるようになったこの頃、多様性を認め、尊重し、保護することが大切であるとよく耳にするようになりました。なぜ、多様であることがこれほどまでに重要とされるようになったのでしょうか。理屈でなく実感をもって多様であることの意義を語ることができないもやもやを長く抱えていました。

### スツキリ

私は、国際文化フォーラムの事業のなかで、多様であることがもつ力を目の当たりにして、その意義をより深く理解することができました。

2012年度より実施している「ソウルでダンス・ダンス・ダンス」は、ダンス好きの中高生に人気のプログラムです。参加する日韓の生徒は共通の興味関心で集まりますが、それぞれに特徴的な「何か」を持っています。例えば韓国語や日本語などコミュニケーションが得意な生徒やダンスが上手い生徒、音楽を編集することができる生徒やファッションに詳しい生徒、料理が得意な生徒や絵が上手い生徒などなど。異なる特技をもつ仲間が集まったチームは、一人ひとりに活躍の場があって誰もが生き生きとしているのに、同じような特技をもった仲間が集まったチームは、優劣にしばられて息苦しそうでした。

この時、私は多様であることの力を実感したのです。そして同時に、多様であることの力を発揮するためには異なる他者とつながる力が欠かせないということに気づいたのです。

ダンス・ダンス・ダンス  
ソウルで



「ソウルで韓国の中高生といっしょに K-POP ダンスを踊って交流しよう！」

このことばに、定員の10倍を超えるほどの応募がある。「SEOULでダンス・ダンス・ダンス」プログラムは2013年3月に、韓国の秀林文化財団との共催で始まった。企画のきっかけは、2010年秋にスタートした中高生のための土曜韓国語講座の学習者を韓国に連れて行ってあげ

photo© 但馬一憲（上段）

韓国の友だちだったら、その場ですぐに「嫌だ」とか「違う」とか言うけど、日本の友だちは相手に悪いと思って言わないことが多い。それがわかったから、相手のことが理解できるようになった。何人かとは今もLINEでつながっている。（第4回韓国側参加者）

たい、という担当者の思いだった。学んでいることばを実際に使いながら、知恵を出し合い、役割を分担しながら、何かをつくりあげる。そのためにはテーマが必要だ。日本の高校生に人気のある K-POP ダンスが選ばれた。

1回めは日本の中高生9名がソウルに行き、韓国語講座の受講、ホームステイなどを体験しながら、最終日のダンスの発表会に向けソウルの中高生と練習や買い物をした。プログラムを終えて、参加者の1人が言った。「韓国の友だちと一緒にいる時間がもっとほしい」

ソウルに滞在するのはわずか5日間。できるだけ一緒に過ごせるように、2回めからは合宿型に変えた。ダンスの練習だけでなく、生活のなかで自然とことばを使うようになる。楽しいだけではない。自分の気持ちが伝わらずもどかしい思いをしたり、時にはぶつかりあうこともある。それでもみんなで協力しなければ、ダンスを完成させることはできない。発表会では、衝突や苛立ちを経て完成させたダンスが披露される。

しかし参加している中高生が全員ダンスが上手なわけではない。ダンス以外で



第1回のダンスの発表を報じる『韓国日報』

釜山まで2時間という長崎県対馬から夜行バスで東京の事前研修に通って  
までなぜこのプログラムに参加したいと思ったかという、韓国とダンス、  
大好きな2つと同時に関わることができたからです。(第1回日本側参加者)

も活躍できる場面をつくった。2014年度の発表会では、ダンスの披露とともに、「かわいい!귀요미(キヨミ)対決」を行った。グループごとに決められた色が入っている洋服や小物などでコーディネートを考えて買い集め、ダンス発表の前にそれぞれが披露してかわいらしさを競い合うのだ。また、日韓の軽食「たこやき」と「トッポギ」を作ったり、かき氷とパッピンス(韓国のかき氷)をグループごとに創作したりするなど、毎回内容の違う活動を行っている。さらに、ダンスチームのメンバー以外の参加者とも交流できるように、部屋割りや活動ごとにグループを変える。

先輩から後輩への口コミ、姉から聞かされて妹が応募するなど、人気のあるプログラムになった。



かわいい!귀요미(キヨミ)対決

photo© 但馬一憲

# CH

## 千葉美由紀

担当: くりっくにっぽん、CoReCa、  
国際文化フォーラム通信



### モヤモヤ

印刷物を担当することが多い私にとって、どうやって伝えるか、どうすれば伝わるのかは、いつも考えている、でも答えの出ないもやもやです。事業をつぶさに書いたのでは長くなりすぎる、正確に記述しようとする結果何が良かったのかわからなくなる、理念ばかりでは何も伝わらない、成果を取り上げると鼻につく、課題が大きくなるとほっぴりたくなる、目をひくことに焦点をあてると事業でめざしたこととずれてくる……。もやもやはどうにも止まりません。この記念誌をつくりながら、このもやもやはさらに増幅しています。

### スッキリ

事業報告書を変えよう！  
見たいと思ってもらえるものにしたい。そう思ってきたのが『CoReCa』です。「見てわかる」をめざしていますが、目標にはまだまだ……というもやもやはさておき、ひとつ自分に課していることがあります。印刷物でしかできないことをすること。最初の年はCoReCaの文字をふわふわに(本当は表紙全体をもふもふにしたかったのですが)、次の年はポップアップ、そして次は穴。そうするうちに言われるようになりました。「次は何をするの?」。すっきりです。



やるんですか？  
自分で



国際交流を高校の外国語の授業で活用するため、2011年度から3年度、沖縄県立向陽高等学校の協力を得て、毎年2年生の中国語の授業に台湾の高校との交流活動を取り入れた。

2011年度は大阪の私立高校も参加し、台湾の新学年が始まる9月からSNSやTV会議を使った3校の交流をスタートさせた。向陽高校の授業では、教科書で学んだ中国語を使っ

て、SNSに自己紹介や沖縄の紹介を投稿し、台湾の高校生からコメントをもらう。大阪の高校生は中国語を学んでいなかったため、英語も使った。SNSは、TJFが中高生の交流用に運営していた「つながーる」を主に利用した。課外時間を使って2回ほどTV会議を行ったほか、希望者が台湾を訪れて交流した。

2012年度の授業を考えるにあたり、向陽高校の教師から、中国語の授業や評価をもっと交流の内容に合わせて行いたいとの要望があった。そこで、4月から交流をスタートし、交流に合わせて8種類の活動を1年間で行う授業計画を作成し、評価の方法を見直した。「夏休みに沖縄に来る台湾の高校生のために、観光プランをつくってプレゼンする」などの具体的な目標を設定し、10時間程度をあてる。必要な中国語を学び、グループで作業を行い、結果をSNSやTV会議で台湾の高校生に向けて発表し、質問に答え、感想を聞く。国際交流を目的にした授業に慣れてくる2学期の後半からは、台湾の高校生と中国語で議論や作業分担をしながら動画制作などに取り組んだ。中国語での交流に絞り、参加校も向陽高校と台湾の高校の2校にした。

教師として知識を与える喜びもあるが、それだけだと教師が教えることしか学ばない。生徒たちに任せる範囲を増やしていくにつれ、自分たちで動くようになった。自ら興味をもって調べているときほど、理解が深く、身体全体で学んでいる様子が伝わってきた。(授業を実施した教師)





這是我們修改過後的，我們把他換成了沖繩的服裝。你們覺得怎麼樣？

這箇吉祥物很好！我們很受到感動瞭！我們很喜歡箇吉祥物 (>v<) ☆



また、交流で利用する SNS を、米国の会社が学校向けに運営する Wikispaces Classroom に変更した。「つながーる」は利用者の安全重視で、会員登録や投稿の承認に時間がかかる。そのため、台湾の高校生の投稿が減少した。台湾の高校生は日常的に利用している Facebook での交流を提案したが、向陽高校のインターネットからはアクセスできなかった。

2013年度は、細部の検討が足りなかった授業や評価に改善を加え、実践した。

最初は「中国語の授業なのになんでこんなことするの？」って思ったけど、やっていくうちに、将来社会に出たときに自分の役に立つことを学んでると感じるようになった。(生徒)

活動が終わるごとに、みんながよく話をしていた。「もう、いや！」という人がいると、ほかの人が「でも、あの活動にはこういう意味があったんじゃない？」と問いかけて議論するようになった。

右：自分たちでつくったキャラクターを主人公に学校生活を紹介する動画を制作  
左：動画に登場させるキャラクターを決めるために台湾の高校生と SNS でやりとり

# ni

## 内藤裕之

代表理事 常務理事



### モヤモヤ

すっきり、した気分で、新しい世界である TJF に飛び込んできたのが、2011年。生きる世界が違う、とはまさにこのことで、新聞もテレビもなく、刻々報じられる東日本大震災の様子はラジカセ頼み。「出金伺書」「公印管理簿」「TJF 理文 11-001」、飛び交う単語もしかつめらしく、時間の流れも編集者の世界とは全くチガウ。文化の違いと言ってしまうと、それまでだが、突然区役所のおじさんになった気分(区役所の方ごめんなさい)で、モヤモヤは今もつづく……。

### スッキリ

モヤモヤ、っとしたものなんだろうな、PM2.5 って、と思っていたら、大違いだった。上海で夕食に向かうため、タクシーに乗ったら、前が見えない。ヘッドライトもついているのに、賑やかな夜の繁華街道が見えない、一寸先は PM2.5、なのだ。2012 年のことだ。

「光化学スモッグ」もこんなに酷くはなかった、眼はチカチカしたけど。恐るべし、悔り難し。毎年「日中の高校生サマーキャンプ」として 100 人規模の日本の高校生を中国での合宿交流に送り出している身としては、リアルに健康への影響が心配だ。折しも主催していた国家漢弁から、何の説明もないまま、突如「延期」の指示が来たところだった。参加者に飲ばれているプログラムだけに、主催事業に切り替えても実施したい。やるべきか、やめるべきかとモヤモヤしていたときだ。

「中国の高校生を日本に招きましょう」。提案された一言で、迷いが晴れた。国家間の情勢に振り回されて事業を中止した、と邪推される恐れも消える。高校生たちの楽しそうな顔が思い浮かんで、スッキリ。

# 焦げそう 脳みそ



2014年度から高校生向けにCMづくりワークショップを実施している。

さまざまな授業で取り入れられているプレゼンや動画・ポスター制作などの発信型の活動では、何を伝えたいのかを掘りさげて明確にする必要がある。CM制作では、通常15～30秒という短い時間でターゲットに興味をもってもらうために、伝えたいことを徹底的に追求して1つに絞りこみ、どうやったら伝わるかが考えぬかれる。そこでCMづくりの手法を使うことにし、CMプランナーに高校生が取り組みやすいステップを考えてもらった。

2014年度に実施した沖縄の高校のテーマは、「学校がある八重瀬町の魅力を中国語圏の観光客向けにPRする」。まず、取材で集めた情報をもとに、町の魅力を書きだしていく。何十もの魅力のなかから1つを選び、その魅力の特徴をいろいろな角度から掘りさげて1つの文章にまとめる。その文章をCMのターゲットに伝わる1行コピーに書き換える。ここまでが「伝えたいことは何か」を追求するステップだ。

その後、ことばや画像をどんな順番で構成したら伝わるのかを考え、映像をつくった。できあがったCMの1つは、「八重瀬町 ふしぎ発見!」。沖縄最古で最大のシーサーと、その方向に顔を向けて点在するさまざまなシーサーの存在を伝え、「あなたはいくつ見つけられるか」と問いかける。「石で釣る 時代に負けない伝統漁法」と題して、半世紀前から行われ、今も続いていて体験もできる漁法について伝えるものもあった。完成したCMは、生徒たちが中国語に翻訳し、実際に町役場のホームページに掲載され、地元テレビでも紹介された。

教師向けのワークショップも2015年に始まった。

正解のない問いに自信がもてなかったり、自分の考えがうまく相手に伝わらないもどかしさを感じたり、そもそも何を伝えるべきか悩んだり。本質を追求し、思索し、そしてことばにする、その難しさと必要性を全員が体感した濃密な時間でした。(ワークショップ実施校の教師)

言いたことがありすぎてよく混乱する。「何を伝えるかまず決めて、そこから表現していく」CMづくりの方法は、これからの人生に役に立つと思った。(参加生徒)

# つながる つながるで



「つながる」は2007年にオープンし、2013年まで続いた中高生向けのSNSである。

2005年の「カフェおきなわ」を皮切りに、日本語を学ぶ海外の中高生と日本の中高生を対象にした国際交流プログラムがスタートした。だが、参加者同士の関わりを深められるよう、定員を20人前後に限定していた。当時、海外で日本語を学ぶ小中高校生は約170万人おり、交流に参加できる人数を増やしてほしいという教育現場からの要望も多かった。

より多くの中高生がお金をかけずに日常的に交流できる場を、SNSを利用してつくりたいと試みたのが「つながる」だ。

ちょうど日本ではmixiをはじめとするSNSが普及しつつあったが、日本語と英語以外は文字化けするなど多言語での利用には問題があった。また、中高生が対象のため、個人情報や安全を管理する必要があったが、当時のSNSでは対応が難しかった。そこで新たに、TJFが事前に会員登録や投稿をチェックすることができ、日本語・英語・韓国語・中国語で投稿と閲覧ができるSNSを開発することにした。オープン後は、個人ユーザーだけでなく、外国語の授業でも利用してもらえるよう教師に働きかけたほか、サマーキャンプなどの国際交流プログラムでも活用した。2011年には、20カ国から約1,500名の中高生が利用した。

一方、2008年にFacebookやTwitterが日本語版を公開、2011年にはLINEがサービスを開始する。SNSは世界規模で急速に拡大し、多言語での書き込み、閲覧も問題なくできるようになり、新機能も次々と開発された。TJFが承認するまで投稿が画面に反映されない「つながる」は、安全ではあっても、スピード感がなく魅力に欠けるものとなった。システム更新には多額の費用がかかるため、2013年に運営を停止した。

実在する相手にメッセージを書くので、生徒たちはとても熱心に取り組んでいた。自分の知っていることばや表現を一生懸命ひねりだして、「気持ち」のこもった文章を書いていた。(オーストラリアの高校の日本語教師)

自信のない英語で書いた記事にコメントが返ってきてとてもうれしかった。最初は自分から積極的に動かないとやりとりが始まらない。その第一歩が大切だと学んだ。「つながる」はわたしと世界をつないでくれた。(日本の高校生)

ことば  
レンズがくれた



2007年に20周年記念事業として、世界の高校生の写真撮影交流プログラム「Focus on Japan 2007」(FOJ)を実施した。日本の高校生8名、海外6ヵ国(アメリカ、イギリス、オーストラリア、韓国、中国、ニュージーランド)の高校生8名、計16名が4チームに分かれ、大阪、東京、広島、宮城を訪れ、人びとの姿や暮らしを写真と文章で表現した。

新しい人と会うことがどれだけ楽しいことなのかを知り、将来の人生設計に変化を与えられた。日本だけでなくいろいろな国のいろいろな人たちと友だちになり、その国について知ることは今の私にとって大きな夢です。  
(韓国の参加者)

1人1台のデジタル一眼レフカメラを持ち、その土地で出会った人に声をかけ、写真を撮る。大阪チームは、お宮参りで赤ちゃんの額に字を書くお母さん、神社で水をまいている禰宜さん、自転車屋のおじさんとおばさん、繁華街である新世界で出会った芝居の役者さん、体操の名門校で部活に励む高校生などを撮影。写真は1チーム数千枚におよんだ。それを25枚程度に絞りこむ。自分たちがいちばん伝えたいことは何か、それを伝えるにはどの写真がいいのか、どうメッセージを書けば伝わるのか、時には対立しながら、話し合いを重ね、写真を選ぶ作業が続く。

できあがった4チームの作品は「一期三会」(宮城チーム)、「東京に生きる—大きな街、小さな物語」(東京チーム)、「暑い、熱い、ATSUI 大阪!! 知らないと“Mottainai” Wonder」(大阪チーム)、「Finding the Richness 豊かさの発見」(広島チーム)。現在もウェブサイトに掲載されている。

このプログラムが誕生した背景には、2006年に第10回をもって終了した「高校生のフォトメッセージコンテスト」があった。身近にいる高校生をメッセージと5枚の写真で表現して競うものだ。作品をつくる過程で、撮影者と被写体の距離は近づき、互いに理解していく様子がメッセージに書かれていた。写真を撮ることがコミュニケーションを深める。これに着目して企画されたのがFOJだった。

イギリスでは日本人といえば禁欲的で感情を表さないという印象があるのですが、大阪の人たちを知って完全に間違っていたと思いました。(参加者)

コンテストに毎回参加していた宮城県塩釜高等学校、和光高等学校（東京）、大阪市立工芸高等学校、広島県立庄原格致高等学校の写真部が自分たちの地域の写真を撮り、応募者はそのなかからどの地域を訪れ、どんな人と会いたいのかを選んで記した。それが課題だった。そして選んだ地域ごとにチームを組んだ。これら4校の写真部には、プログラムが始まってからも、各グループに同行し、撮影のアドバイスをしてもらった。こうした大きな支えがあってFOJは実現した。

日本がこんなにもおもしろいところだと知ってしまった以上、今後ずっとニュージーランドにとどまることなんてできません。（参加者）

国を超えて人の感性、個性の違いを肌で感じ、作品を通じてお互いを評価しあうことで自分の視野が広がった。（日本の参加者）



mi

## 水口景子

業務執行理事 事務局長



### モヤモヤ

TJFは2011年に公益財団法人に移行した。事業内容からみて公益財団法人への移行は当然だと思われていたので、特に疑問を感じることはなかった。その後「公益財団法人としてふさわしい事業」ということばをたびたび聞くようになった。2016年12月末現在で日本にある公益財団法人の数は5,308団体。「私たちの事業は◎◎だから公益財団にふさわしい」とすっきりした答えが見つけれられているのか。それを自問自答するもやもやが続いている。

### スツキリ

2007年、初めて中国語を学ぶ高校生の中国短期研修を実施することになった。準備期間は短かったが、あれもしよう、これもしてみたいと自由に企画できることにワクワクした。100名近い高校生を引き連れての10日間である。私が何をしたかといえば、大声で注意の繰り返し。参加者には怖い先生と映ったに違いない。帰国後は、楽しいだけの一過性のプログラムに終わってしまったのではないかとの思いもあった。

しばらくして、一通の封書を受け取った。参加者のお母さんからだった。そこには、自信をもてず消極的だった娘が「何か違う娘になっているぞ!」と感じたとあった。その後も「娘はいま北京に留学し、ひとりで頑張っています」「中国語を使った仕事を始めました」と折りにふれて便りが届いた。なんだか胸のつかえがとれた気がした。

## 高校生の写真ウェブサイト

2009年、いくつかあった高校生が撮影した写真を発信するウェブサイトをもとめて「高校生のフォトフォトフォト!」を開設し、新たに2つのコーナーを設けた。

1つは高校の写真部が日常の活動で撮影した作品を掲載する「高校生写真ギャラリー」だ。写真部の顧問の先生方から、生徒の作品を発表する場がほしいという声があったからだ。初年度には6校から177点が寄せられたが、2年め、3年めは応募がなく、2011年3月をもって募集を中止した。

もう1つのコーナーは「The Way We Are II」。世界に向けて日本の高校生のありのままの姿を発信することをめざし、「高校生のフォトメッセージコンテスト」の開催中は、入賞作品をウェブサイトに掲載した。2007年にコンテストを終了した後も発信を続けたいと考えていたところ、コンセプトを引き継いでくれた読売新聞社主催の「よみうり写真大賞」高校生部門「フォト&エッセーの部」の入賞作品を掲載できることとなり、メッセージの英訳とともにこのコーナーに掲載した。掲載は、「フォト&エッセーの部」が終了する2013年まで続いた。



ありのままのわたし、  
ここにいます

## りんごをかじろう

# 知らないこと に出会う ワクワク感を



さまざまな文化やことばにふれるイベント「りんごをかじろう」は2013年に始まった。毎回、異なることばや文化の魅力を講師に語ってもらうと同時に、その土地のものを食べたり飲んだりしながら懇談する。インターネットで情報をすぐに入手できる時代だからこそ、生でふれられる目の前の「であい」がことばの学びや文化への関心を何倍も大きくする。「ブータン 聖地をめぐる山旅」の回では、講師の小林尚礼<sup>なおゆき</sup>氏が、写真を見せながらブータンの聖地を訪ねたときのエピソードを語ってくれた。山岳高地に生息するヤクの乳からつくられたバター茶を飲み、ブータンの人びとが話すゾンカ語をミニ講座で学び、なかなか出会うことのないことばや文化にふれることができた。

おいしいとこだけ、ちょっとかじってみて「りんご」を味わう。さまざまな文化の魅力にふれあう場はどんどん広がっている。

私自身が海外に興味があったというのもあるのですが、ことばだけでなく、講師の方のエピソードだったり、その土地のお菓子や飲み物を口にできたりと文化にもしっかりふれることができるのにひかれました。(「りんごをかじろう」に5回参加した男性)

# 背中を押す 贈り物

2013年6月22日、TJF26回めの設立記念日に「りんご記念日寄付キャンペーン」を開始した。「りんご（隣語）」は隣の人とつながるためのことば、その人にとって大切な外国語のことだ。そんな外国語と自分が出会った日を「りんご記念日」とし、メッセージの提供と寄付を呼びかけた。「りんご」と出会った体験談を書いてもらうことで、異なることばや文化の壁の前に立ちすくむ若い人たちに同じ出合いを贈り、彼らの背中を押すことがねらいだった。

フィンランド語と英語が隣語のN.M.さんは、長男がフィンランドに留学した日を家族のりんご記念日にした。「スマホもタブレットも持って冒険に出よう」と呼びかけたT.T.さんのメッセージは、外国人と直接知り合い、話をする経験は日本人である自分を理解する一助にもなり、偏狭なナショナリズムにとらわれない精神を磨くことができるはず、というものだ。

より多くの人にキャンペーンに参加してもらうため翌2014年から、作家、画家、学者、俳優、漫画家、スポーツ選手、落語家などさまざまな分野で活躍している方々に「りんご記念日応援団」になってもらった。腹話術師のいっこく堂さんは、初めて上海で腹話術を披露したとき、中国語の第一声で、会場の人たちと心の距離がぐっと近くなるのを感じたとメッセージを寄せてくれた。大相撲初のエジプト出身力士である大砂嵐<sup>きんたろう</sup>金崇郎さんの大好きな日本語は「よろしくお願ひします」。母語であるアラビア語にはなく、フレンドリー、ピースを表していて、どんなときにも誰にでも使えるすごくいいことばだと語ってくれた。

# 知ってください、 私たちのこと

2011年の公益財団法人移行に合わせ、冊子『であい、つながる』を刊行し、財団設立以来年4回発行してきた機関誌『国際文化フォーラム通信』のデザインを一新した。『であい、つながる』は、事業で出会った人たちの7つのエピソードを通じてことばの力をまとめたものだ。『国際文化フォーラム通信』はデザイナー・鈴木一誌氏の発案で、毎号トップページに「解をつくる」「『考える』を刺激する」など特集テーマのコンセプトを表す写真を写真家・大木茂氏に提供してもらった。2014年1月に迎えた通巻100号は、応援してくださる方々とTJFとの距離を近づけるための特別号とし、「10×10+10・・・」（テン・バイ・テン・プラス・テン・・・）と題してスタッフ1人ひとりの素顔を発信した。また設立から5代を数える歴代事務局長に事業にかけた熱意と苦勞を語ってもらった。この号をもって、従来の機関誌には区切りをつけたが、その後新スタッフ入局の折に、100号を包み込む形の「100+」号を表裏4ページで発行した。これらの号は通常の日本語版に加え、英語版、中国語版、韓国語版をつくり、TJFを身近に感じてもらう入口として現在も使われている。

2014年6月にメールマガジン「わやわや」を、11月には見てわかる事業報告をめざし『CoReCa（コレカ）』を立ち上げた。月に2回配信する「わやわや」ではTJFが実施する事業の参加者募集を中心に情報提供を行い、『CoReCa』では事業と関連する話題を特集として取り上げ、2012年にすでに開設していたFacebookでは日々のスタッフの活動や事業の様子などをリアルタイムで発信するなど、各々の特性に合わせた広報活動に努めている。

## TJFを支援してくださった方々

TJFは皆さまからご協力、ご支援をいただき事業を行っています。  
この10年間にさまざまな形で支えてくださった皆さまのお名前を記  
し、改めましてお礼を申し上げます。

### 法人賛助会員

伊藤忠紙パルプ(株)、(株)NHK出版、遠州製紙(株)、王子製紙(株)、(株)オリコム、  
鹿島建設(株)、春日製紙工業(株)、(株)吉星、共同印刷(株)、キングレコード(株)、  
近代美術(株)、(株)弘研、(株)廣濟堂、講談社インターナショナル(株)、  
(株)講談社ビジネスパートナーズ、(株)講談社ロジコム、(株)光文社、興陽製紙(株)、  
国際紙パルプ商事(株)、(株)国宝社、三光製紙工業(株)、(株)資生堂、(株)主婦と生活社、  
(株)主婦の友社、住友信託銀行(株)、誠和製本(株)、(株)世界思想社教学社、第一紙業(株)、  
(株)第一通信社、大王製紙(株)、大二製紙(株)、大日本印刷(株)、(株)太洋社、  
中越パルプ工業(株)、(株)電通、電通ヤング・アンド・ルビカム(株)、(株)トーハン、  
(株)トキワ、図書印刷(株)、凸版印刷(株)、豊国印刷(株)、日興紙業(株)、  
日商岩井紙パルプ(株)、日本紙パルプ商事(株)、日本出版販売(株)、日本製紙(株)、  
日本図書普及(株)、(株)博報堂、(株)フォーネット社、富士ゼロックス(株)、  
富士ゼロックス東京(株)、二葉製本(株)、北越紀州製紙(株)、北越製紙(株)、丸王製紙(株)、  
丸住製紙(株)、丸紅紙パルプ販売(株)、(株)三井住友銀行、三井住友信託銀行(株)、  
三菱製紙(株)、三菱製紙販売(株)、(株)三菱東京UFJ銀行、(株)ムサシ、(株)本貴、  
(株)彌生洋紙店

### 個人賛助会員

石井恵理子、石井誠、石井雅男、市原徳郎、岩野忠昭、小田倉正典、小貫邦夫、  
カイト由利子、唐沢正彰、重村博文、鈴木茂次、高崎孝、高嶋伸和、田代忠之、中野佳代子、  
浜田博信、福島正子、細谷美代子、松井外恵、松岡直昭、柳川敦重、匿名希望1名

### 一般寄付

【団体】(株)講談社、王子製紙(株)、大日本印刷(株)、凸版印刷(株)、日本製紙(株)、  
(株)三菱東京UFJ銀行、神田女学園中学校高等学校、ジェイエツチシー(株)、

小溪教材研究チーム、トラベルワールドジャパン、とわの森三愛高等学校

【個人】青山恭子、浅井晶子、荒川清秀、安藤宣孝、飯田陽子、池北昌子、池田美加子、  
池谷尚美、伊古田陽子、伊佐恭子、石井恵理子、石井誠、石岡宏海、石垣麗子、石川直樹、

石下景教、石塚誠、石山雄太、泉文明、磯山進、市原徳郎、伊藤都章、伊藤優、井上幸紀、任喜久子、ウィリアム・ロバート・ハス、上田麻菜、宇佐美慎吾、牛島通彦、内田憲孝、内館牧子、遠藤許穂、及川伊佐子、王安、大川完三郎、大熊博子、大島弥生、大砂嵐金崇郎、大月実、大西響子、大村和枝、小川竹虎、荻田裕子、奥泉香、奥間幸子、奥間さつき、奥間正英、奥村聡、奥本大三郎、小栗章、小田桐奈美、小野木仁孝、温悠、カイト由利子、加賀谷まり子、柿原武史、角谷昭美、数馬田奈津紀、桂竹丸、門脇薫、金子史朗、上村圭介、河合薫、川口義一、河田昌一郎、川津英一郎、菅野吉雄、神原ひかり、神原操、木内文子、岸昌代、鬼頭靖尚、木戸芳子、金孝卿、木本陽香、切通しのぶ、久保田達也、久米井敦子、黒鉄ヒロシ、古石篤子、黄華珍、胡興智、後藤茂伸、顧文君、祭貴貴美子、サイトウノブコ、齋藤由美子、榮谷温子、佐々木倫子、笹野和恵、左治木由美子、佐藤篤、佐藤宏子、佐藤美津子、佐藤八千代、佐野実、澤口梅子、澤邊裕子、静永健、柴田翼、渋谷周二、下山忍、白木久子、杉谷眞佐子、鈴木和夫、鈴木高弘、鈴木啓修、鈴木誠、須田美知子、孫永善、高崎仁淑、高崎孝、高島淑郎、高田早苗、高橋史幸、瀧澤琢也、武田育恵、田中順子、田中久光、田沼武能、玉城一石、玉城眞幸、千葉哲也、千場由美子、中條伸義、陳韻斐、蔦道子、蔦宮子、綱島延明、常澄智代、照井はるみ、當作靖彦、唐涛、富平美波、中島響子、中西千香、中野貞弘、中村健治、中村條二、長沢恵美子、長藤節子、並木孝幸、南潤珍、榑木準子、西田聡子、西堀勝仁、西山郁枝、にしゃんた、仁禮博徳、根本欣哉、長谷川由起子、長谷川義人、早矢仕智子、阪堂千津子、ひとみみのる、平井和之、平田直子、廣田浩二、馮小喆、布浦万代、布浦淑野、福井啓子、福田直衛、福田マサ子、福田美知子、藤井達也、藤掛未来、藤田清隆、古田富建、古屋順子、星野勝樹、堀川秀咲、本田孝一、ボンダレンコ・オクサーナ、前田誠朗、牧信之、政岡潔子、真嶋潤子、松井外恵、松尾雅広、松崎久子、松崎真日、松澤幸太郎、松原秀行、松本鐘一、松本誠、松山美彦、眞鍋禮孝、丸山悠輝、チャド・マレーン、水畑哲也、水本敬子、三田崇文、宮内孝子、宮崎健、三代純平、村岡波子、村上豊、茂木貴子、森慶介、森伸治、森住衛、森田英幸、森本美佐子、森脇美栄子、諸見里明、柳素子、山川ユウコ、山口聡史、山崎順平、山田秀二、山本久美子、山本容子、山本義明、山脇尚登、矢渡富貴、佑木瞬、弓野克彦、横田雅弘、吉田玉果、吉田忠正、吉葉弘美、六本木雅一、脇阪豊、渡瀬敏文、和田利一 匿名希望 36 名

---

#### 助成団体

---

アクセンチュア(株)、(財)かめのり財団、(公財)かめのり財団、漢語橋基金、(独)国際交流基金、国際交流基金ソウル日本文化センター、国際交流基金北京日本文化センター、(社)尚友倶楽部、(一社)尚友倶楽部、

セコム(株)、(財)双日国際交流財団、(公財)双日国際交流財団、(公財)東華教育文化交流財団、東京韓国教育院、(社)東京倶楽部、(財)東芝国際交流財団、(公財)東芝国際交流財団、(財)21世紀職業財団、(公財)日韓文化交流基金、(独)日本万国博覧会記念機構、(財)三菱銀行国際財団、(財)三菱UFJ国際財団、(公財)三菱UFJ国際財団、ルースキー・ミール財団

---

#### コラボレーター

---

荒木さくら、五十嵐佳代子、石原麻衣、井上正順、井上まゆ子、梅澤侑加、大川瑛里、大森美和、荻野裕子、Kern Mika、木内凜太郎、北見沙愛、金乗民、木本陽香、楠麻祐子、久保田達也、栗本真希、小島綾夏、齊藤孝、施恩、鈴木涼子、高崎孝、高梨美緒、土田芳雄、堤純子、照井はるみ、内藤堯夫、永井壽子、中島悠、八野嶺太、原隆幸、原田陽子、柊澤豪介、馮小喆、平田絢香、古谷聡、馬麗娜、三浦映那、三木奏、安田仁美、柳澤桃、山川友梨子、山口雪江、山下美誓、和田利一

---

#### 共催・協力・協賛・後援

---

ISI 国際学院、(株)朝日新聞社、アジアナ航空(株)、ASIANA AIRLINES、ANA、異文化間教育学会、インスティトゥット・セルバンテス、ヴィクトリア州日本語教師会(JLTAV)、桜美林大学、桜美林大学孔子学院、大阪市立工芸高等学校撮影研究部、沖縄県教育委員会、沖縄県高等学校中国語教育研究会 ICT 国際交流学習部会、外国語学習のめやすマスター、外国語教育学会、外務省、神奈川韓国総合教育院、神奈川県教育委員会、神奈川県公立中学校長会、(財)神奈川県私立中学高等学校協会、神奈川県、カワカブ会、川崎市教育委員会、川崎市立中学校長会、韓国観光公社、韓国日本語教育研究会、関西大学大学院外国語教育学研究科、関西大学外国語教育研究機構、九州産業大学国際文化学部、慶熙大学校国際教育院、(財)クムホ・アジアナ文化財団、KUMHO タイヤ、経済産業省、ゲーテ・インスティトゥット、光新高等学校、(株)講談社、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク、高等学校中国語教育研究会、高等学校中国語教育研究会北海道支部、高等学校ドイツ語教育研究会、高等経済学院、国際教育活動ネットワーク REX-NET、国際交流基金ソウル日本文化センター、国際交流基金モスクワ日本文化センター、(独)国際交流基金、国際交流基金シドニー日本文化センター、国際交流基金会北京事務所、国際交流基金北京日本文化センター、国際交流基金マニラ日本文化センター、

(一社) 国際フレンドシップ協会、黒龍江省教育学院、国家漢弁、  
在サンクトペテルブルク日本国総領事館、在上海日本国総領事館、在瀋陽日本国総領事館、  
在瀋陽日本国総領事館在大連出張駐在官事務所、埼玉韓国教育院、在中国日本国大使館、  
在日フランス大使館文化部、在日本中国大使館教育処、札幌市教育委員会、  
サンクトペテルブルク日本センター、実用英語教育学会 (SPELT)、  
(独) JICA、JICA 中国事務所、JAPAN AIRLINES、上海甘泉外国語中学、  
上海市工商外国語学校、秀林外語専門学校、(財) 秀林文化財団、上智大学国際言語情報研究所、  
(株) 情報センター出版局、新英語教育研究会、全国英語教育研究団体連合会、  
(社) 全国高等学校文化連盟、全国語学教育学会、全国都道府県教育委員会連合会、  
全日本写真連盟、ソウル大学言語教育院、ソウル日本語教育研究会、大学英語教育学会、  
大連教育学院、大連市教育局、大連市第 31 中学、大連市第 37 中学、  
大連市内日本語教育実施中学校、千葉韓国教育院、  
千葉県高等学校教育研究会中国語部会、千葉県立幕張総合高等学校、中国語教育学会、  
中国教育学会外国語教学専門委員会、中国教育学会外語教学専門委員会日語部会、  
中国教育部、中国駐大阪総領事館教育室、中国駐札幌総領事館、忠清北道日本語教育研究会、  
中等日本語課程設置校工作研究会、駐日韓国大使館韓国文化院、駐日韓国文化院世宗学堂、  
長春日章学園高中、朝鮮語教育研究会、東京韓国教育院、東京私立中学高等学校協会、  
東京都教育委員会、東京都高等学校総合学科教育研究会、東京都立杉並総合高等学校 PTA、  
凸版印刷(株)、(株) ニコンイメージングジャパン、日露青年交流センター、  
(財) 日韓文化交流基金、日中学院、日中韓文化交流フォーラム、日本イスパニヤ学会、  
日本外国語教育改善協議会、日本言語政策学会、日本語教育学会、日本国際理解教育学会、  
(財) 日本私学教育研究所、日本私学教育研究所複言語教育研究会、  
日本中国語学会、日本独文学会、日本フランス語教育学会、(社) 日本ユネスコ協会連盟、  
日本ロシア語教育研究会、日本ロシア文学会、ニューサウスウェールズ州教育省、  
ノボシビルスク市シベリア・北海道文化センター、広島県立庄原格致高等学校写真部、  
福岡韓国朝鮮語教育研究会、福岡県教育委員会、釜山韓日文化交流協会、  
フランス語教育振興協会、ブリティッシュ・カウンシル、文京区青少年プラザ b-lab、  
北京経済技術開発区実験学校、北京市国際教育交流中心、北海道教育委員会、  
北海道高等学校英語教育研究会、北海道高等学校中国語教育研究会、(株) 北海道新聞社、  
北海道大学国際本部留学生センター、宮城県塩釜高等学校写真部、武蔵野大学出版会、  
文部科学省、横浜市教育委員会、横浜市立中学校長会、横浜市立みなと総合高等学校、  
横浜市立みなと総合高等学校多言語多文化共生理解部、  
遼寧省基礎教育研究教師研修センター、和光高等学校写真部

## 歴代役員・顧問・事務局

敬称略、就任・入局順、所属・肩書きは就任時のものです。

財団法人国際文化フォーラム (2007.4 ~ 2011.3 の在籍者)

### 【理事】

野間 佐和子(1989.4 ~ 2011.3) 会長 / (株) 講談社代表取締役社長  
渡邊 幸治(1999.4 ~ 2011.3) 理事長 / 元駐ロシア特命全権大使  
田所 宏之(2001.4 ~ 2009.3) 常務理事 / 常勤  
岡崎 憲行(2009.4 ~ 2011.3) 常務理事 / 常勤  
ドナルド・キーン(1987.6 ~ 2011.3) / コロンビア大学教授  
北島 義俊(1987.6 ~ 2011.3) / 大日本印刷(株) 代表取締役社長  
福原 義春(1987.6 ~ 2011.3) / (株) 資生堂代表取締役社長  
三角 哲生(1987.6 ~ 2011.3) / 日本育英会理事長  
山本 正(1987.6 ~ 2011.3) / (財) 日本国際交流センター理事長  
黒沼 ユリ子(1991.4 ~ 2011.3) / ヴァイオリニスト  
小林 陽太郎(1991.4 ~ 2009.3) / 富士ゼロックス(株) 代表取締役社長  
鈴木 孝夫(1991.4 ~ 2011.3) / 杏林大学教授  
藤田 弘道(1992.4 ~ 2011.3) / 凸版印刷(株) 代表取締役社長  
横山 至孝(2003.4 ~ 2011.3) / (株) 講談社常務取締役  
中野 佳代子(2005.4 ~ 2011.3) / 常勤  
三木 繁光(2005.4 ~ 2011.3) / (株) 東京三菱銀行取締役会長  
中村 雅知(2006.4 ~ 2011.3) / (株) 日本製紙グループ本社代表取締役社長  
篠田 和久(2007.4 ~ 2011.3) / 王子製紙(株) 代表取締役社長

### 【監事】

小田倉 正典(1987.6 ~ 2011.3) / 公認会計士  
関根 邦彦(2006.4 ~ 2011.3) / (株) 講談社常任監査役

### 【顧問】

高嶋 伸和(2001.5 ~ 2009.3) / (財) 国際文化フォーラム前常務理事

### 【評議員】

饗庭 孝典(1987.6 ~ 2011.3) / 日本放送協会解説委員  
奈良 久彌(1987.6 ~ 2011.3) / (株) 三菱銀行副頭取  
鮑 啓東(1987.6 ~ 2011.3) / (株) オリファ取締役社長  
松岡 紀雄(1987.6 ~ 2011.3) / 神奈川大学海外広報研究センター教授  
C.W. ニコル(1991.4 ~ 2011.3) / 作家  
鈴木 和夫(1992.4 ~ 2010.3) / 凸版印刷(株) 取締役相談役

上野 田鶴子(1993.4～2011.3) /東京女子大学教授  
 茂木 友三郎(1993.4～2011.3) /キックマン(株)代表取締役専務  
 輿水 優(1997.4～2011.3) /日本大学教授  
 草場 宗春(1998.4～2011.3) / (財)ユネスコ・アジア文化センター理事長  
 佐藤 郡衛(1999.4～2011.3) /東京学芸大学教授  
 鶴田 尚正(1999.4～2009.3) /日本出版販売(株)取締役副社長  
 水谷 修(1999.4～2011.3) /名古屋外国語大学教授  
 吉田 研作(1999.4～2011.3) /上智大学教授  
 梅田 博之(2001.4～2011.3) /麗澤大学副学長  
 小宮 秀之(2002.4～2008.5) / (株)トーハン海外事業部長  
 足立 直樹(2003.4～2011.3) /凸版印刷(株)代表取締役社長  
 佐藤 國雄(2003.4～2011.3) / (財)ユネスコ・アジア文化センター理事長  
 浜田 博信(2003.4～2011.3) / (株)講談社取締役副社長  
 野間 省伸(2005.4～2011.3) / (株)講談社代表取締役副社長  
 北島 義斉(2006.4～2011.3) /大日本印刷(株)専務取締役  
 関口 裕(2006.4～2011.3) /王子製紙(株)常務取締役  
 富田 充(2006.4～2009.10) /講談社インターナショナル(株)代表取締役社長  
 長瀬 眞(2006.5～2011.3) /全日本空輸(株)常務取締役執行役員  
 若松 常正(2006.5～2009.3) /日本製紙(株)専務取締役洋紙営業本部長  
 鈴木 仁(2008.5～2009.10) / (株)トーハン取締役海外事業部長  
 加藤 哲朗(2009.4～2011.3) /日本出版販売(株)常務取締役  
 野口 文博(2009.4～2011.3) /日本製紙(株)専務取締役  
 小田 厚(2009.10～2011.3) / (株)トーハン海外事業部長  
 廣田 浩二(2009.10～2011.3) /講談社インターナショナル(株)代表取締役社長

【事務局】

伊藤幸男(1991.4～2011.3) 中野佳代子(1992.2～/事務局長 2003.4～2011.3)  
 原島陽子(1992.2～2008.3) 藤掛敏也(1992.4～2011.3) 水口景子(1994.5～2011.3)  
 飯野典子(1994.10～2011.3) 室中直美(1995.3～2011.3) 小栗章(1996.1～2010.2)  
 長江春子(1996.3～2011.3) 千葉美由紀(2000.2～2011.3) 辻本京子(2000.6～2009.3)  
 森亮介(2005.7～2011.3) 楊鳳秋(2006.4～2009.3) 大船ちさと(2007.10～2010.3)  
 安藤まどか(2009.4～2011.3) 扇谷真佐子(2009.4～2011.3) 柴田幹子(2009.4～2011.3)  
 中野敦(2009.4～2011.3) 森本雄心(2009.4～2011.3)

公益財団法人国際文化フォーラム (2011.4～の在籍者)

【評議員】

野間 省伸(2011.4～) 評議員会長 / (株)講談社代表取締役社長  
 饗庭 孝典(2011.4～2015.10) /東アジア近代史学会副会長  
 足立 直樹(2011.4～) /凸版印刷(株)代表取締役会長  
 北島 義斉(2011.4～) /大日本印刷(株)代表取締役副社長  
 草場 宗春(2011.4～2012.3) /大阪大谷大学前学長  
 関口 裕(2011.4～2012.1) /王子製紙(株)代表取締役副社長 副社長執行役員  
 中村 雅知(2011.4～2014.5) / (株)日本製紙グループ本社取締役会長  
 奈良 久彌(2011.4～2016.4) / (株)三菱総合研究所特別顧問  
 持田 克己(2011.6～2015.6) / (株)講談社専務取締役  
 渡辺 正(2012.2～2013.9) /王子製紙(株)取締役専務執行役員  
 長瀬 眞(2013.6～) / (株)ANA総合研究所代表取締役社長  
 洲上 一雄(2013.9～2015.6) /王子製紙(株)代表取締役社長  
 芳賀 義雄(2014.5～) /日本製紙(株)代表取締役社長  
 青山 秀彦(2015.6～) /王子製紙(株)代表取締役社長  
 山根 隆(2015.6～) / (株)講談社専務取締役

【理事】

渡邊 幸治(2011.4～) 代表理事 理事長 /元駐ロシア特命全権大使  
 内藤 裕之(2011.4～) 代表理事 常務理事 /常勤  
 中野 佳代子(2011.4～9) 業務執行理事 /常勤 (2011.9～2012.3) /理事  
 上野 田鶴子(2011.4～) /特定非営利活動法人日本語教育研究所理事長  
 梅田 博之(2011.4～2017.6) /麗澤大学前学長、東京外国語大学名誉教授  
 金丸 徳雄(2011.4～) / (株)講談社取締役  
 輿水 優(2011.4～) /佐野短期大学学長、東京外国語大学名誉教授  
 境 一三(2013.6～) /慶應義塾大学教授  
 佐藤 郡衛(2013.6～) /東京学芸大学理事・副学長

【監事】

小田倉 正典(2011.4～2011.5) /公認会計士  
 木村 芳友(2011.4～2015.6) / (株)講談社常任監査役  
 清水 至(2011.6～) /公認会計士、新日本有限責任監査法人公認会計部シニアパートナー  
 白石 光行(2015.6～) / (株)講談社常任監査役

#### 【顧問】

小田 厚(2011.5～ ) / (株)トーハン海外事業部長  
加藤 哲朗(2011.5～2014.3) / 日本出版販売(株)常務取締役  
北島 義俊(2011.5～ ) / 大日本印刷(株)代表取締役社長  
佐藤 郡衛(2011.5～2013.6) / 東京学芸大学理事・副学長  
篠田 和久(2011.5～2015.7) / 王子製紙(株)代表取締役社長 社長執行役員  
鈴木 孝夫(2011.5～ ) / 慶応義塾大学名誉教授  
長瀬 眞(2011.5～2013.6) / 全日本空輸(株)代表取締役副社長 執行役員  
野口 文博(2011.5～2014.3) / 日本製紙(株)専務取締役  
藤田 弘道(2011.5～ ) / 凸版印刷(株)相談役  
鮑 啓東(2011.5～ ) / 人材派遣健康保険組合前理事長  
松岡 紀雄(2011.5～2014.3) / 神奈川大学名誉教授  
三木 繁光(2011.5～ ) / (株)三菱東京 UFJ 銀行特別顧問  
水谷 修(2011.5～2014.3) / 名古屋外国語大学学長  
吉田 研作(2011.5～ ) / 上智大学教授  
佐藤 信一(2014.3～2017.5) / 日本製紙(株)常務執行役員  
宮路 敬久(2014.3～2016.3) / 日本出版販売(株)取締役  
酒井 和彦(2016.5～ ) / 日本出版販売(株)常務取締役  
大春 敦(2017.5～ ) / 日本製紙(株)執行役員印刷用紙営業本部長

#### 【事務局】

安藤まどか(2011.4～2015.1) 飯野典子(2011.4～2011.8) 柴田幹子(2011.4～ )  
千葉美由紀(2011.4～ ) 中野敦(2011.4～ ) 長江春子(2011.4～ )  
藤掛敏也(2011.4～ ) 水口景子\*(2011.4～ ) 室中直美(2011.4～ )  
森亮介(2011.4～ ) 森本雄心(2011.4～2013.2) 宮川咲(2013.9～ )  
沈炫旼(심효민) (2014.8～ )

\* 事務局長

TJF  
2007-2016

## 2007 年度

### 【中国の日本語教育サポート】

- ・大連市日本語教師研修(中国・大連)
- ・『好朋友』第1巻、第2巻(試行版)制作
- ・遼寧省、大連市の教育代表団を招聘
- ・大連市小学校向け日本語教材買い上げに助成
- ・好朋友編集委員を招聘
- ・大連市中学校への日本語教師派遣に助成
- ・吉林省・黒龍江省・遼寧省の日本語教育活動に助成
- ・日中の学校交流活動に協力

### 【授業に役立つ素材の提供】

- ・『Takarabako』『ひだまり』(6、9、12、3月)、『小溪』(4、7、10、1月)を発行
- ・TJF Photo Data Bank日本編と中国編を運営
- ・『好きやねんハングル』(白帝社)の制作出版に助成・協力

### 【米国の日本語教育サポート】

- ・日米の学校交流活動に協力

### 【中国語と韓国語の教師研修】

- ・神田外語大学と天理大学の韓国語高校教員免許取得講座に協力(東京、奈良)
- ・高等学校中国語教育研究会・中国語教育学会共催の合同大会に助成
- ・高校の中国語教師研修(中国・長春、北京、東京、大阪、北九州)
- ・高校の韓国語教師研修(東京)

### 【外国語学習のめやす】

- ・『高等学校の中国語と韓国朝鮮語学習のめやす(試行版)』の検証

### 【韓国語学習者のサポート】

- ・第1回クムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会

### 【日中韓フォーラム】

- ・フォーラム2007「民話」(東京)

### 【日中・日韓の校長交流】

- ・国際理解教育セミナーin大連

### 【日中の高校生交流】

- ・漢語橋日本高校生サマーキャンプ(中国・北京、大連)

### 【世界の中高生の交流ウェブサイト】

- ・つながるウェブサイトを開設
- ・つながるワークショップ(オーストラリア3回、米国、韓国、横浜)

### 【世界の高校生の撮影交流】

- ・Focus on Japan(宮城、東京、大阪、広島)

### 【高校生の写真ウェブサイト】

- ・写真集『The Way We Are 2006 伝えたい私たちの素顔』を発行

### 【広報】

- ・『国際文化フォーラム通信』(4月、7月、10月、1月)を発行
- ・事業報告書(日英)を発行
- ・国際文化フォーラム設立20周年記念誌『ことばと文化II』を発行

第4回国際教育シンポジウムに助成

日本中国友好協会主催の全日本中国語スピーチコンテストで国際文化フォーラム賞を授与  
高等学校中国語教育研究会の事務局を担当

## 2008 年度

### 【中国の日本語教育サポート】

- ・大連市の優秀日本語教師を招聘
- ・大連市日本語教師研修(中国・大連)
- ・大連市中学校への日本語教師派遣に助成
- ・『好朋友』(試行版)第3巻制作
- ・大連市の小学校日本語教材買い上げに助成
- ・大連市中学校日本語教師の訪日研修
- ・小学校日本語教科書『小学日語教材』(遼寧少年児童出版社)の出版に助成・協力
- ・日中の学校交流活動に協力

### 【日本の情報発信】

- ・くりっくにっぽんウェブサイトを開設

### 【授業に役立つ素材の提供】

- ・『Takarabako』『ひだまり』(6、9、12、3月)、『小溪』(4、7、10、1月)を発行
- ・TJF Photo Data Bank日本編と中国編を運営
- ・『好きやねんハングル』(白帝社)の制作出版に助成・協力
- ・『すぐに使える韓国語アクティビティ45』(白帝社)の制作に協力

### 【米国の日本語教育サポート】

- ・ACTFL(American Council on the Teaching of Foreign Languages)年次大会におけるNCJLT(National Council of Japanese Language Teachers)主催イベントに助成
- ・日米の学校間交流活動に協力

### 【中国語と韓国語の教師研修】

- ・神田外語大学の韓国語高校教員免許取得講座に協力(東京)
- ・高校の中国語教師研修(中国・長春、大阪、札幌、東京)
- ・韓国語教師研修(大阪)

### 【外国語学習のめやす】

- ・『高等学校の中国語と韓国朝鮮語学習のめやす』(試行版)の検証
- ・『外国語学習のめやす2012』の制作

### 【韓国語学習者のサポート】

- ・第1回クムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」大会優秀者の韓国研修
- ・第2回クムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会

### 【日中韓フォーラム】

- ・フォーラム2008「食文化」(東京)

### 【日中・日韓の校長交流】

- ・北京市の教育代表団の受け入れに協力
- ・日本の教育代表団中国派遣(中国・大連)

### 【日中の高校生交流】

- ・漢語橋日本高校生サマーキャンプ(中国・大連)
- ・日本語橋中国高校生サマーキャンプ(中国・大連)

### 【世界の中高生の交流ウェブサイト】

- ・つながるワークショップ(オーストラリア、ニュージーランド、米国各3回、韓国、カナダ、大阪、大分、鹿児島)
- ・つながるウェブサイトを運営

### 【広報】

- ・『国際文化フォーラム通信』(4、7、10、1月)を発行
- ・事業報告書(日英)を発行

### 【講義・講演】

- ・東京外国語大学で外国語学習のめやすをテーマに講義
- ・明海大学で日本の高校の外国語教育をテーマに講義

日本中国友好協会主催の全日本中国語スピーチコンテスト国際文化フォーラム賞を授与  
高等学校中国語教育研究会北海道支部・関東支部の高校生中国語発表会に助成  
日本語教育国際研究大会パネルセッション「初等中等教育における日本語教育の教育理念と目標」に助成  
高等学校中国語教育研究会の事務局を担当

## 2009 年度

### 【中国の日本語教育サポート】

- ・『好朋友』(試行版)第4巻、第5巻制作
- ・中学生大連派遣事業(中国・大連)
- ・大連市中学校への日本語教師派遣に助成
- ・小学校日本語教科書『小学日語教材』(遼寧少年児童出版社)の出版に助成・協力

### 【日本の情報発信】

- ・くりっくにっぽんウェブサイトを運営

### 【授業に役立つ素材の提供】

- ・『Takarabako』『ひだまり』(6、9、12、3月)、『小溪』(4、7、10、1月)を発行
- ・TJF Photo Data Bank日本編と中国編を運営

### 【米国の日本語教育サポート】

- ・日米の学校交流活動に協力

### 【中国語と韓国語の教師研修】

- ・高校の中国語教師研修(中国・長春)
- ・韓国語教師研修(福岡)

### 【外国語学習のめやす】

- ・『高等学校の中国語と韓国朝鮮語学習のめやす』(試行版)の検証
- ・高等学校中国語・韓国語教師研修(神奈川)
- ・『外国語学習のめやす2012』の制作

### 【隣語講座】

- ・(財)神奈川県私学中学高等学校協会の中国語講座に協力

### 【韓国語学習者のサポート】

- ・第2回クムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」大会優秀者の韓国研修
- ・第3回クムホ・アジアナ杯「話してみよう韓国語」高校生大会

### 【日中韓フォーラム】

- ・公開フォーラム「日本の韓国語教育30年を振り返って」(東京)
- ・京劇ワークショップ(東京)

### 【日中・日韓の校長交流】

- ・日本の教育代表団の中国派遣(中国・北京)

### 【日中の高校生交流】

- ・漢語橋日本高校生サマーキャンプ(中国・北京)

### 【世界の中高生の交流ウェブサイト】

- ・つながるワークショップ(大阪3回、オーストラリア、沖縄各2回、横浜、東京)
- ・つながるウェブサイトを運営

### 【高校生の写真ウェブサイト】

- ・高校生のフォトフォトフォト! ウェブサイトを開設

### 【広報】

- ・『国際文化フォーラム通信』(4、7、10、1月)を発行
- ・事業報告書(日英)を発行

### 【講義・講演】

- ・新宿区立大久保小学校で中国語・中国語理解をテーマに講義
- ・龍谷大学で学習のめやすをテーマに講義
- ・東京外国語大学で学習のめやすをテーマに講義

日本中国友好協会主催の全日本中国語スピーチコンテストで国際文化フォーラム賞を授与  
高等学校中国語教育研究会の事務局を担当

◎2009年12月に事務所を文京区音羽に移転

## 2010 年度

### 【中国の日本語教育サポート】

- ・黒龍江省、遼寧省の教育代表団を招聘
- ・好朋友ワークショップ(中国・瀋陽)
- ・好朋友経験交流会(中国・長春)
- ・小学校日本語教科書『小学日語教材』(遼寧少年児童出版社)の出版に助成・協力
- ・『好朋友』(試行版)第1巻、第2巻を寄贈用に買い上げ

### 【日本の情報発信】

- ・くりっくにっぽんウェブサイトを運営

### 【授業に役立つ素材の提供】

- ・『Takarabako』『ひだまり』(6、9、12、3月)、『小溪』(4、7、10、1月)を発行
- ・Ringoメルマガを配信開始
- ・TJF Photo Data Bank日本編と中国編を運営

### 【米国の日本語教育サポート】

- ・ウィスコンシン州メナーシャ市教育代表団を招聘

### 【中国語と韓国語の教師研修】

- ・高校の中国語教師研修(中国・長春)

### 【外国語学習のめやす】

- ・高校の韓国語・中国語教師研修(東京)
- ・『外国語学習のめやす2012』の制作

### 【隣語講座】

- ・中国語講座(神奈川)
- ・韓国語講座(東京)

### 【日中・日韓の校長交流】

- ・日本の教育代表団の中国派遣(中国・北京)

### 【日中の高校生交流】

- ・漢語橋日本高校生サマーキャンプ(中国・北京)

### 【世界の中高生の交流ウェブサイト】

- ・つながるワークショップ(東京、カナダ各3回、米国2回、大阪、富山、静岡、山口、沖縄)
- ・つながるウェブサイトを運営

### 【高校生の写真ウェブサイト】

- ・高校生のフォトフォトフォト! ウェブサイトを運営

### 【広報】

- ・『国際文化フォーラム通信』(4、7、10、1月)を発行
- ・事業報告書(日英韓中)を発行

### 【講義・講演】

- ・東京韓国教育院の韓国語教師研修で講義

日本中国友好協会主催の全日本中国語スピーチコンテストで国際文化フォーラム賞を授与  
高等学校中国語教育研究会の事務局を担当

## 2011 年度

### 【中国の日本語教育サポート】

- 吉林省と遼寧省の教育代表団を招聘
- 好朋友webを開設
- 東北三省の日本語教師研修(中国・瀋陽)
- 小学校日本語教科書『小学日語教材』(遼寧少年児童出版社)の出版に助成・協力

### 【日本の情報発信】

- くりっくにっぽんウェブサイト運営

### 【授業に役立つ素材の提供】

- 『Takarabako』『ひだまり』(6、9月)を発行
- Ringoウェブサイト開設、Ringoメルマガを配信
- 『高校生からの中国語2』(白帝社)に編集協力

### 【米国の日本語教育サポート】

- ウィスコンシン州メナーシャ市教育代表団を招聘
- 野間佐和子記念寄付

### 【中国語と韓国語の教師研修】

- 高校の中国語教師研修(中国・長春)

### 【外国語学習のめやす】

- 高校の中国語・韓国語教師研修(神奈川)
- ミニシンポジウム「21世紀の日本の外国語教育を考える」(神奈川)
- シンポジウム「未来を生きぬくための外国語教育に挑む」(東京)
- 『外国語学習のめやす2012 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』を発行

### 【隣語講座】

- 韓国語講座(東京)
- 中国語講座(東京)
- 拓殖大学第一高等学校の課外授業「韓国語講座」に協力(東京)

### 【日中・日韓の校長交流】

- 日本の教育代表団中国派遣(中国・ハルビン)

### 【日中の高校生交流】

- 互いのことばを学ぶ日中の高校生サマーキャンプ:漢語橋と日本語橋(中国・長春)

### 【協働を生み出すプログラムの開発】

- 国際交流を取り入れた沖縄県立向陽高等学校の外国語の授業づくりと授業の実施

### 【世界の中高生の交流ウェブサイト】

- つながるウェブサイト運営

### 【高校生の写真ウェブサイト】

- 高校生のフォトフォトフォト!ウェブサイト運営

### 【広報】

- 『国際文化フォーラム通信』(4、7、10、1月)を発行
- 事業報告書(日英韓中)を発行
- 『であい、つながる』を発行

### 【講義・講演】

- 東京外国語大学で外国語学習のめやすをテーマに講義
- 明治大学で日本文化情報発信をテーマに講義
- 慶應義塾大学で外国語学習のめやすをテーマに講義

- 梨花女子大学で外国語学習のめやすをテーマに講義
- 韓国二重言語学会で外国語学習のめやすをテーマに発表

日本中国友好協会主催の全日本中国語スピーチコンテストで国際文化フォーラム賞を授与  
高等学校中国語教育研究会の事務局を担当

◎4月に公益財団法人に移行

## 2012 年度

### 【中国の日本語教育サポート】

- 大連市日本語教師研修(中国・大連)
- 黒龍江省の教育代表団を招聘
- 東北三省日本語教師研修(中国・ハルビン)
- 好朋友モデルカリキュラム作成

### 【日本の情報発信】

- くりっくにっぽん日本語版・英語版・中国語版をリニューアル、韓国語版開設
- くりっくにっぽんのFacebook公式ページ開設
- 明治大学国際日本学部2年生の横田雅弘教授のゼミに協力(東京)

### 【授業に役立つ素材の提供】

- Ringoウェブサイト運営、Ringoメルマガを配信

### 【米国の日本語教育サポート】

- 野間佐和子記念寄付

### 【中国語と韓国語の教師研修】

- 高校中国語教師研修(中国・長春)

### 【外国語学習のめやす】

- 実践サポートめやすweb開設
- 高校韓国語・中国語教師研修(大阪)
- 『外国語学習のめやす 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』を発行
- 外国語学習のめやす実践ワークショップ(東京)

### 【小中高校の教師研修】

- 言語教育における21世紀スキルの実践についての講義(東京)

### 【隣語講座】

- 韓国語講座(東京)
- 中国語講座(東京)
- 拓殖大学第一高等学校の課外授業「韓国語講座」に協力(東京)

### 【日中・日韓の校長交流】

- 中国語教育取り組み校経験交流会(東京)

### 【日中の高校生交流】

- 互いのことばを学ぶ日中の高校生サマーキャンプ:漢語橋と日本語橋(千葉、中国・長春、北京)

### 【日韓の中高校生交流】

- SEOULでダンス・ダンス・ダンス2012(東京、韓国・ソウル)

### 【協働を生み出すプログラムの開発】

- 国際交流を取り入れた沖縄県立向陽高等学校の外国語の授業づくりと授業の実施

### 【世界の中高生の交流ウェブサイト】

- つながるウェブサイト運営

### 【高校生の写真ウェブサイト】

- 高校生のフォトフォトフォト!ウェブサイト運営

### 【広報】

- 『国際文化フォーラム通信』(4、7、10月、1月)を発行
- TJFのFacebook公式ページ開設
- 事業報告書(日英韓中)を発行

(一社)日本外国語教育推進機構と上智大学国際言語情報研究所共催のシンポジウムに特別協力  
日本中国友好協会主催の全日本中国語スピーチコンテストで国際文化フォーラム賞を授与  
高等学校中国語教育研究会の事務局を担当

## 2013 年度

### 【中国の日本語教育サポート】

- 好朋友ワークショップ(中国・長春)
- 好朋友モデルカリキュラム作成
- 『好朋友教学実践指南』を発行
- 中国の大学への図書寄贈に協力

### 【日本の情報発信】

- くりっくにっぽん紹介・ワークショップ(オーストラリア6回、韓国3回)
- くりっくにっぽんウェブサイト、Facebook公式ページを運営

### 【授業に役立つ素材の提供】

- Ringoウェブサイトを運営、Ringoメルマガを配信

### 【米国の日本語教育サポート】

- 野間佐和子記念寄付

### 【外国語学習のめやす】

- 『NIPPON3.0の処方箋』(講談社)に編集・構成協力
- 第1回「外国語学習のめやす」マスター研修(大阪、兵庫、滋賀)
- 実践サポートめやすwebを運営

### 【小中高校の教師研修】

- 高度の思考能力育成についてのセミナー・ワークショップ(北海道、沖縄)
- グローバル時代に対応する人材育成についてのセミナー(大阪、東京、福岡)
- 言語教育におけるプロジェクト学習の実践見学(東京7回)

### 【隣語講座】

- 韓国語講座(東京)
- 中国語講座(千葉)
- 拓殖大学第一高等学校の課外授業「韓国語講座」に協力

### 【日中・日韓の校長交流】

- 日本の教育代表団の中国派遣(中国・長春)
- 中国語教育取り組み校経験交流会(東京)

### 【日韓の中高校生交流】

- SEOULでダンス・ダンス・ダンス2012報告会(東京)
- SEOULでダンス・ダンス・ダンス2013(東京、韓国・ソウル)

### 【協働を生み出すプログラムの開発】

- 国際交流を取り入れた沖縄県立向陽高等学校の外国語の授業づくりと授業の実施

### 【世界の中高生の交流ウェブ】

- つながるウェブサイトを運営

### 【高校生の写真ウェブサイト】

- 高校生のフォトフォトフォト!ウェブサイトを運営

### 【りんごをかじろう】

- 「びーむ先生のタイ語」「京劇体験」(東京)

### 【りんご記念日】

- りんご記念日寄付キャンペーンを開始

### 【広報】

- 『国際文化フォーラム通信』(4、7月、1月)を発行
- 事業報告書(日英韓中)を発行
- TJFのFacebook公式ページを運営

### 【講義・発表】

- 東京外国語大学で学習のめやすをテーマに講義

(一社)日本外国語教育推進機構と上智大学国際言語情報研究所共催のシンポジウムに特別協力  
日本中国友好協会主催の全日本中国語スピーチコンテストで国際文化フォーラム賞を授与  
高等学校中国語教育研究会の事務局を担当

## 2014 年度

### 【中国の日本語教育サポート】

- シンポジウム「グローバル人材の育成と多様な外国語教育」・日本語教師向けワークショップ(中国・上海)
- 『好朋友教学実践指南 極』を発行
- 中国中高校日本語教師研修(中国・西安)
- 日本語教師向けワークショップ(中国・大連)
- 中国の大学への図書寄贈に協力

### 【日本の情報発信】

- くりっくにっぽん紹介・ワークショップ(オーストラリア6回、韓国4回)
- くりっくにっぽんウェブサイト、Facebook公式ページを運営

### 【授業に役立つ素材の提供】

- Ringoウェブサイトを運営、Ringoメルマガを配信

### 【外国語学習のめやす】

- 外国語学習のめやすマスター企画の教師研修(大阪、東京)
- 第2回「外国語学習のめやす」マスター研修(兵庫)
- ロシア語教育用「めやす」の制作
- 実践サポートめやすwebを運営

### 【小中高校の教師研修】

- 言語教育におけるプロジェクト学習の講義と実践見学(東京9回)
- グローバル化時代の教育と評価についての講義・ワークショップ(沖縄、北海道、大阪)

### 【隣語講座】

- 韓国語講座(東京2講座)
- 中国語講座(千葉)
- 拓殖大学第一高等学校の課外授業「韓国語講座」に協力

### 【日中・日韓の校長交流】

- 中国の日本語教育実施校管理職・生徒を招聘

### 【日韓の中高校生交流】

- SEOULでダンス・ダンス・ダンス2014(東京、韓国・ソウル)

### 【CMづくりワークショップ】

- 生徒向け(沖縄)

### 【りんごをかじろう】

- 「写真で知るブラジルの暮らし」「中国の水墨画体験」「プータン 山旅の魅力紹介」(東京)

#### 【りんご記念日】

- りんご記念日応援団を創設、りんご記念日寄付キャンペーン

#### 【広報】

- メルマガ「わやわや」を配信開始
- 『国際文化フォーラム通信』(8月)を発行
- 『CoReCa2013-2014』を創刊
- TJFのFacebook公式ページを運営

#### 【講義・講演】

- 明海大学で外国語学習のめやすをテーマに講義
- 宮城学院女子大学で日本の情報発信をテーマに講義
- 東京外国語大学で外国語学習のめやすをテーマに講義
- 東京都立青梅総合高等学校で日本文化紹介をテーマに講演
- 読売ジュニアプレス創刊30周年シンポジウムで今そこにあるグローバルをテーマに講演

(一社)日本外国語教育推進機構と上智大学国際言語情報研究所共催のシンポジウムに特別協力  
日本中国友好協会主催の全日本中国語スピーチコンテストで国際文化フォーラム賞を授与  
高等学校中国語教育研究会の事務局を担当

## 2015 年度

#### 【中国の日本語教育サポート】

- 中国中高校日本語教師研修(中国・長沙)
- 国際文化フォーラム・大連教育学院共同10周年記念事業(中国・大連)
- 中国の大学への図書寄贈に協力
- 大連市第31中学の「好朋友日本文化体験基地」に教材寄贈

#### 【日本の情報発信】

- くりっくにっぽん紹介・ワークショップ(オーストラリア、フィリピン)
- 微博(中国のSNS)「点击日本(くりっくにっぽん)」公式ページを開設
- Click Nippon Newsメルマガを配信開始
- くりっくにっぽんウェブサイト、Facebook公式ページを運営

#### 【授業に役立つ素材の提供】

- Ringoウェブサイトを運営

#### 【中国語と韓国語の教師研修】

- 日韓教師交流会(さいたま市)

#### 【外国語学習のめやす】

- 実践サポートめやすwebをめやすwebにリニューアル
- 外国語学習のめやすマスター企画の教師研修(東京、名古屋)
- 第3回「外国語学習のめやす」マスター研修(千葉、神奈川)
- 外国語学習のめやすマスター研修修了者会合(神奈川)
- 『外国語学習のめやすーロシア語教育用ー』を発行

#### 【小中高校の教師研修】

- グローバル化時代の教育と評価についての講義・ワークショップ(東京、大阪、沖縄、北海道)
- プロジェクト学習のワークショップ(東京)

#### 【隣語講座】

- 韓国語講座(東京2講座)
- 世界の言語と文化を知ろう! 「世界の韓流と日本の韓流」(東京)
- 中国語講座(東京)
- 拓殖大学第一高等学校の課外授業「韓国語講座」に協力(東京)

#### 【日露交流】

- モスクワとノボシビルスクの日本語教師を招聘
- 日露教師合同ワークショップ(東京)
- 日本語開設校への図書寄贈

#### 【日中・日韓校長交流】

- 日本の高校校長の韓国派遣(韓国・大田、ソウル)
- 日韓校長・教師交流交流会(韓国・ソウル)
- 韓国の高校生を招聘
- 中国の日本語教育実施校管理職・生徒を招聘

#### 【日韓の中高生交流】

- SEOULでダンス・ダンス・ダンス2015(東京、韓国・ソウル)

#### 【CMづくりワークショップ】

- 教師向け(東京2回)、生徒向け(北海道、東京)

#### 【りんごをかじろう】

- 「ベトナム語 辞典編纂秘話」「タイの信仰 お守りと祠について」「中国結び体験」「日本のお笑い 笑えるトーク」(東京)

#### 【りんご記念日】

- りんご記念日寄付キャンペーン、りんご記念日応援団

#### 【広報】

- 『CoReCa2014-2015』を発行
- インターネットラジオ「ごちそうリミックス」を配信開始
- TJFのFacebook公式ページを運営
- メルマガ「わやわや」を配信

#### 【講義・講演】

- 東京外国語大学で外国語学習のめやすをテーマに講義
- 東京都立青梅総合高等学校で日本文化紹介をテーマに講演
- 横浜市立みなと総合高等学校の上海研修の事前研修に協力

(一社)日本外国語教育推進機構と上智大学国際言語情報研究所共催のシンポジウムに特別協力  
日本中国友好協会主催の全日本中国語スピーチコンテストで国際文化フォーラム賞を授与  
高等学校中国語教育研究会の事務局を担当

◎2016年1月に日韓の教育交流への貢献に対する大臣表彰を受賞

◎2016年2月に日中学院倉石賞を受賞

## 2016 年度

#### 【中国の日本語教育サポート】

- 中国中等日本語教師研修(中国・上海)
- 中国の大学への図書寄贈に協力
- 『好朋友』第1巻、第2巻を寄贈用に買い上げ

#### 【日本の情報発信】

- くりっくにっぽん紹介・ワークショップ(ニュージーランド2回、オーストラリア)
- とときめき取材記ウェブサイトを開設
- くりっくにっぽんウェブサイト、Facebook公式ページを運営
- Click Nippon Newsメルマガを配信
- 武蔵野美術大学三代純平准教授の「日本事情」の授業に協力(東京)
- 微博(中国のSNS)「点击日本(くりっくにっぽん)」公式ページを運営

#### 【外国語学習のめやす】

- 外国語学習のめやすマスター企画の教師研修(東京、大阪)
- 大阪大学大学院言語文化研究科の外国語学習のめやす研修に協力(京都)
- 立命館アジア太平洋大学の外国語学習のめやす研修に協力(大分)
- 宮城学院女子大学日本文学科日本語教員養成課程の外国語学習のめやす研修に協力(仙台)
- めやすWebを運営

#### 【小中高校の教師研修】

- グローバル化時代の教育と評価についての講義・ワークショップ(沖縄、大阪、北海道)
- プロジェクト学習のワークショップ(東京2回)

#### 【隣語講座】

- 韓国語講座(東京、横浜)
- 世界の言語と文化を知ろう!「日本が好きな中国を知ろう」「りんご(中国語と韓国語)をかじってみる」(東京)
- 拓殖大学第一高等学校の課外授業の「韓国語講座」に協力(東京)

#### 【日露交流】

- 高校ロシア語教師と高校生派遣(ロシア・ノボシビルスク、モスクワ)
- 日露教師合同研修(ロシア・モスクワ)
- サクトペテルブルク日本語教師研修(ロシア・サクトペテルブルク)
- 日本語開設校に図書寄贈

#### 【日中・日韓の校長交流】

- 日本の高校校長の韓国派遣(韓国・ソウル)
- 日韓校長・教師交流交流会(韓国・ソウル)
- JENESYS2016 韓国高校校長と生徒を招聘

#### 【日韓の中高校生交流】

- SEOULでダンス・ダンス・ダンス2016(東京、韓国・ソウル)

#### 【CMワークショップ】

- 教師向けCMワークショップ(東京)

#### 【りんごをかじろう】

- 「イラン式 人付き合いのコツ」「鯨やバナナ 身近なモノに着目することで見えてくる世界」(東京)

#### 【りんご記念日】

- りんご記念日寄付キャンペーン、りんご記念日応援団

#### 【広報】

- 『CoReCa2015-2016』を発行
- メルマガ「わやわや」を配信
- インターネットラジオ「ごちそうリミックス」を配信
- TJFのFacebook公式ページを運営

#### 【講義・講演】

- 逗子開成高等学校の韓国研修旅行の事前研修に協力
- 私学教育研究所の教員免許状更新講習で「外国語学習と国際交流をつなぐ」をテーマに講義
- 東京外国語大学で外国語学習のめやすをテーマに講義
- 東京都立青梅総合高等学校で日本文化紹介をテーマに講演
- 横浜市立みなと総合高等学校の上海研修の事前研修に協力

(一社)日本外国語教育推進機構と上智大学国際言語情報研究所共催のシンポジウムに特別協力  
日本中国友好協会主催の全日本中国語スピーチコンテストで国際文化フォーラム賞を授与  
高等学校中国語教育研究会の事務局を担当

## 財団の概要

### 設立

1987年6月22日

2011年4月1日、公益財団法人に移行

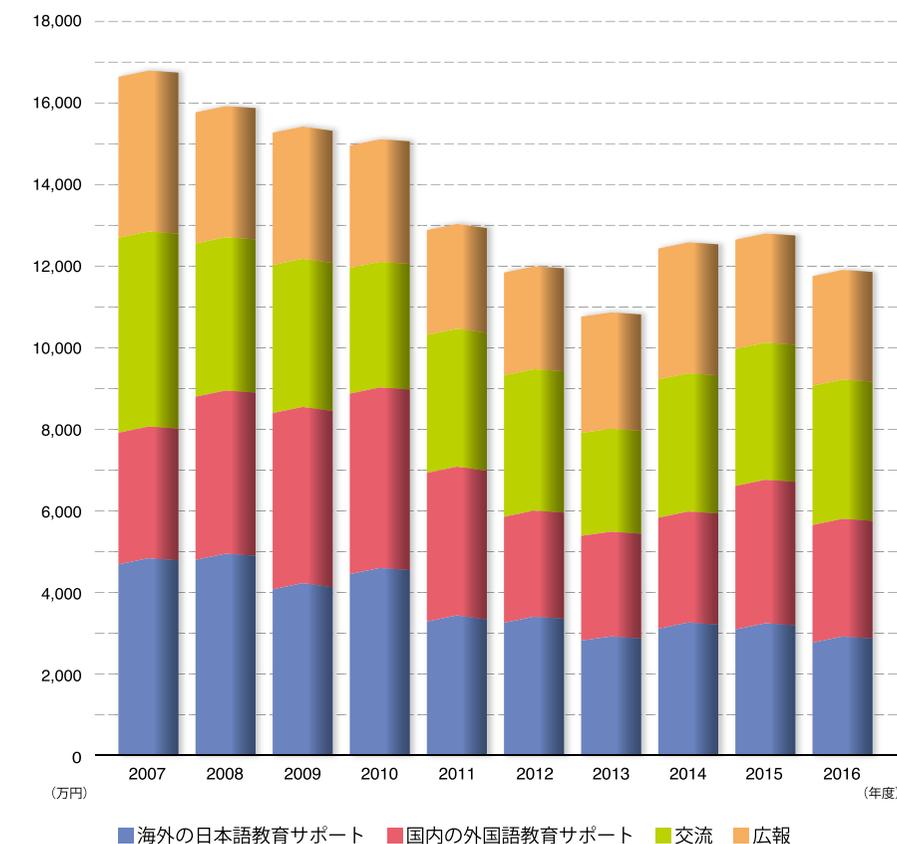
### 出捐企業

王子製紙株式会社、株式会社講談社、大日本印刷株式会社、凸版印刷株式会社、日本製紙株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行

### 基本財産

20億円

### 事業規模



人やモノや情報が  
国や地域を越えていくグローバル社会。  
日本国内でも学校で、地域で、職場で、  
多言語・多文化状況が進んでいます。

グローバル化が  
進展するこれからの時代、  
子どもたちの活躍の舞台は  
ますます世界に広がっていくでしょう。

こんな時代を  
生きていく子どもたちが  
自分たちの未来を  
切り拓いていくために  
必要な力は何でしょうか。

他者と対話する力、  
共感できる力、  
異なることば、  
異なる文化の人びとと協働し、  
新しい何かを創造する力……

私たちはこれらの力を育むための  
外国語教育と交流事業を  
国内外で行っています。